平成２４年度

教育委員会点検・評価報告書

平成２５年１０月

登別市教育委員会

目　　次

Ⅰ 教育委員会の点検・評価について・・・・・・・・・・・・　１

Ⅱ 評価の手法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
　１ 点検・評価の対象
　２ 実施の流れ

Ⅲ 評価結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
　１ 教育委員会の活動状況の概要報告
　２ 重点施策の評価
　３ 重点施策の評定結果

Ⅳ 点検・評価に関する学識経験者の意見等・・・・・・・・・３７

Ⅴ 評価のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４３

Ⅵ 参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４４
　１　平成２４年度教育行政執行方針
　２　教育に関する具体的な計画とその点検・評価の流れ
　３　平成２４年度　各種基本計画の進捗状況
　　・ 学校教育基本計画
　　・ 第４次社会教育中期計画
　　・ 文化振興基本計画
　　・ スポーツ振興基本計画

Ⅰ 教育委員会の点検･評価について

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）が改正され（平成２０年４月１日施行)、教育委員会では、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされ、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関する学識経験を有する方の知見の活用を図ることとされました。

登別市教育委員会では、効率的な教育行政の推進を図るとともに、市民への説明責任を果たしていくため、地教行法に基づき、平成２４年度の教育委員会の活動状況の報告と基本方針及び重点項目の主な施策（２１項目）について点検評価を行い、教育に関する学識経験を有する方々の意見を付して「教育委員会点検・評価報告書」としてまとめました。

本報告書を公表することにより、市民の皆様に教育に関する事務の管理及び評価の状況について説明するとともに、今後の施策・事業の展開に活用し、より一層効果的な教育行政の推進を図ってまいります。

Ⅱ 評価の手法

１ 点検･評価の対象

登別市教育委員会点検・評価は、教育委員会の活動状況の他、平成２４年度の教育行政執行方針に位置づけられた施策・事業を点検・評価の対象として実施しました。

２ 実施の流れ

⑴教育委員会の活動状況の概要報告

教育委員会の１年間の様々な活動について

⑵平成２４年度の重点施策の管理及び執行状況の評価

・教育行政執行方針に位置づけられている重点施策を評価しました。

点 検 内 容	当該年度の教育行政執行方針の重点内容
取 組 状 況	当該年度内に実施した取組の概要
評　　価	取組の実施状況に対する評価
今後の方向性	今後の取組を進める上での課題や対応の方向

⑶教育行政執行方針における重点施策の評定結果

・４段階（Ａ～Ｄ）で、評価を実施しました。

Ａ：達成しているもの

Ｂ：おおむね達成しているもの

Ｃ：達成見込みであるが一部課題があるもの

Ｄ：達成に向け困難な課題があるもの

(4) 点検・評価に関する学識経験者の意見等

・点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する外部の方からの意見、助言をいただきました。

学識経験者

氏　　名	所　　属　　等
石 井　憲 一	元日本工学院北海道専門学校　参与
浅 野　　清	登別市退職校長会　会長

Ⅲ 評価結果

1 教育委員会の活動状況の概要報告

(1) 教育委員会の活動状況

教育委員会については、毎月１回下旬に定例会議を開催しました。

必要に応じて開催する臨時会議は、１０月に市内中学校での生徒指導上の問題を報告するために一度開催しております。

会議においては、登別市教育委員会教育長に対する事務委任規則に従って、教育長委任事務以外の事務における議案の提案理由や説明が行われた後、各委員からの質問・意見などの審議を経て、いずれも可決、了承されました。

また、事務局からの情報提供や各種課題、事業の進捗状況、その他事項の報告について、委員と事務局との間で意見交換を行いました。

(2) 平成２４年度　登別市教育委員会「定例会議」の概要

第１回 会議	4/24 16:30	議案第１号　登別市立図書館処務規程の一部改正について 情報提供　1,平成24年度登別市組織機構図(教育委員会)について 2,平成24年度教育委員会事務局職員名簿について 3,平成24年度児童数・学級数調書(小学校)について 4,平成24年度生徒数・学級数調書(中学校)について 5,平成24年度登別市小中学校行事予定一覧について 6,平成24年度登別市小中学校「校長会」・「教頭会」三役等について 7,年度別不登校児童・生徒の出現の状況について 8,不登校「切っ掛け・継続の理由」分布について 9,年度別いじめ認知件数推移の状況について 10,第52回北海道社会教育研究大会(胆振大会)について 兼全国社会教育委員連合北海道ブロック大会について 11,郷土資料館資料ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ化事業(緊急雇用創出推進事業)について 12,古文書教室について

第２回 会議	5/30 16:30	議案第2号　登別市スポーツ推進委員の委嘱について 第3号　登別市社会教育委員の委嘱について 第4号　登別市立図書館協議会委員の任命について 第5号　平成23年度教育行政事務の管理執行状況の点検・評価に係る学識経験者の活用及び選任について 第6号　登別市立鷲別小学校改築基本計画の策定について 情報提供 1,市内中学校器物破損事故の報告について 2,平成24年度児童数、学級数調書(小学校)について 3,平成24年度児童数、学級数調書(中学校)について 4,「文化･スポーツ情報in登別」について 5,平成24年度登別市内小学校運動会日程について 6,学校給食センターホームページへの食材の地産表示アップについて

教育委員と校長会との懇談会

１　目　的　　市内の学校が取り組む教育課題について、教育委員と校長会との共通理解や相互の認識を深め連携を強化するために、懇談会を開催する。

２　日　時　　平成２４年５月３０日（水）　１５：３０～１６：３０

３　場　所　　登別市民会館　小会議室

４　出席者　　登別市教育委員　　松村昌孝委員長　他４名
登別市校長会三役　顧問・会長・副会長・事務局長
教育委員会事務局　教育部長・参与・次長・各担当者

５　テーマ　　「平成２４年度の各学校の現状と課題について」

６　懇　談　　全体進行：総務グループ総括主幹　司会：教育委員長
「平成２４年度の各学校の現状と課題について」
・学力向上対策・保護者・地域との連携・特色ある教育活動など

第３回 会議	6/29 16:30	報告第1号　市議会定例会提出議案に関する意見に係る臨時代理の報告について 第2号　平成24年第2回登別市議会定例会一般質問について 情報提供　1,第６回社会を明るくする運動「街頭啓発パレードについて」 2,平成24年度教育課程編成状況について 3,登別市の登校支援事業について 4,不審者情報について 5,通学合宿、土曜寺子屋について 6,平成24年度図書館要覧について
第４回 会議	7/25 16:30	情報提供　1,中学校柔道の授業の安全な実施に向けた指導体制について 2,通学路の安全確保について 3,ALTの新規招致者について 4,子どもの安全に係わる緊急対応ガイドラインについて 5,給食センターにおける計画停電対応策について 6,平成24年度北海道都市教育委員会連絡協議会(根室市)への出席について

第５回 会議	8/29 14:30	情報提供　1,登別市のいじめ対策について 2,今夏の各学校での節電対策について 3,平成24年度全国学力･学習状況調査の設問別調査結果について 4,平成23年度教育委員会点検･評価報告に関する意見について 5,図書館３階男子トイレの使用不可に係る経緯等について
第６回 会議	9/21 16:30	報告第3号　市議会定例会提出議案に関する意見に係る臨時代理の報告について 議案第7号　平成23年度教育行政事務の管理執行状況の点検･評価について 情報提供　1,平成24年度第3回市議会定例会一般質問事項(教育関係)について 2,教育委員会広報「教育のぼりべつ」の発行について
第７回会議 (臨時会)	10/２ 16:30	報告第4号 市内における生徒指導上の問題について
第８回 会議	10/18 16:15	議事日程第1　登別市教育委員会委員長の選挙について 議事日程第2　登別市教育委員会委員長職務代理者の指定について 報告第5号　平成24年度第3回登別市議会定例会一般質問について 報告第6号　平成24年度登別市功労者表彰及び登別市表彰受賞者について 議案第8号　登別市教育委員会教育長の任命について 情報提供　1,登別市のコミュニティスクールの概要について 2,平成24年度教育ふれあいウィークについて 3,登別市立幌別東小学校公開研究会について 4,市内における生徒指導上の問題のその後の経過について 5,「第8回登別市立図書館まつり」について 6,第2次登別市子ども読書活動推進計画案について
第９回 会議 （延期）	11/27 15:30	暴風雪による停電のため延期 移動教育員会（幌別小学校　図工室） ・幌別小学校体育館耐震補強改修工事視察 ・校長･教頭等との懇談会　～幌別小学校の学校力向上の取組について～ （本年度の移動教育委員会は中止とした）
第９回 会議	12/4 16:30	議案第7号　市議会定例会提出議案に関する意見に係る臨時代理の報告について 第8号　暴風雪に伴う停電等の災害に対する市内小中学校の対応及び教育関連施設の被害状況等について 議案第9号　登別市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について 情報提供　1,平成24年度「教育ふれあいウィーク」実施状況について 2,平成24年度登別市における全国学力学習調査の結果について 3,市民会館駐車場に隣接する土地(前銭湯)について 4,暴風雪に伴う停電等の災害に対する協力のお礼について 5,平成24年度第4回市議会定例会の日程について
第１０回 会議	12/26 16:30	議案第10号　登別市立学校医等表彰について 議案第11号　登別市指定文化財の解除について 情報提供　1,第3回「登別市学校給食展」について 2,平成25年登別市成人祭について 3,平成24年第4回登別市議会定例会一般質問答弁順序表について

		4,「教育のぼりべつ(平成24年度第2号)」について 5,胆振管内教育委員会委員研修会の開催について
第１１回 会議	1/23 16:30	報告第 9号　人事異動発令に係る臨時代理の報告について 第10号　平成24年度登別市立小中学校等耐震診断結果(富岸小学校校舎･体育館、登別小学校体育館)について 協議第１号　登別市青少年会館設置条例の一部改正について 議案第12号　登別市青少年会館運営規則の一部改正について 情報提供　1,フッ化物洗口について 2,第3回登別市学校給食展について 3,平成25年登別市成人祭について 4,インフルエンザの罹患状況について 5,登別市議会議員研修会の開催について 6,家族の時間づくりプロジェクト事業について 7,平成24年度卒業式出席者の日程調整について
第１２回 会議	2/18 16:30	議案第13号　教職員の服務について 第14号　平成25年度学校給食費の額について 第15号　平成25年度登別市教育行政執行方針について 報告第11号　市議会定例会提出議案に関する意見に係る臨時代理の報告について 情報提供　1,学校開放事業の自主管理の取組について 2,学校開放事業の利用申し込み方法の変更について 3,郷土資料館「はじめまして展」について 4,平成24年度小中学校卒業式出席予定委員等について
第１３回 会議	3/25 16:00	報告第12号　平成25年第1回登別市議会定例会一般質問等について 第13号　教職員人事内申に係る臨時代理の報告について 第14号　人事異動発令に係る臨時代理の報告について 議案第16号　登別市文化財審議会委員の委嘱について 第17号　第2次登別市子ども読書活動推進計画の策定について 第18号　登別市立学校管理規則の一部改正について 第19号　登別市立学校運営協議会設置要綱の制定について 第20号　登別市児童生徒スポーツ振興助成金交付要綱の一部改正について 第21号　登別市児童、生徒文化振興助成金交付要綱の一部改正について 第22号　登別市青少年センター設置要綱の全部改正について 第23号　登別市立鷲別小学校改築基本設計案について 第24号　登別市教育委員会事務局組織規則の一部改正について 情報提供　1,平成25年度登別市立中学校進路状況(高校進学)について

(3) 調査活動の実施状況

教育委員による小中学校の教育活動の視察や研修活動の概要

①公開研究会等の視察

9/26　青葉小学校：垣内委員長出席

9/28　幌別小学校：垣内委員長（他１名）出席

11/ 8　幌別東小学校：武田教育長出席

②教育ふれあいウィーク視察

・市内一斉学校公開日「ふれあいウィーク」の視察 11/1･11/2

垣内委員長(幌別中)　　森口委員(鷲別中)

赤井委員(富岸小･若草小)　武田教育長(富小･東小･若小･青小･西小･緑中)

・11/4　市教研講演会　　垣内委員長(他１名)出席

③登別市教育研究会研究大会の視察　武田教育長出席

・11/6　視察校

登別小学校(音楽部会)　　登別中学校(進路指導部会)

幌別中学校(社会・理科・養護部会)　幌別西小学校(算数・図工美術部会)

④ 8/22･8/24　北海道都市教育委員会連絡協議会　定期総会

根室市総合文化会館　垣内委員長（他２名）出席

⑤胆振管内教育委員会委員研修会　登別万世閣　2/7･2/8　垣内委員長(他３名)出席

講演会「学力向上について」講師：北海道教育大学教授　相馬一彦氏　４名出席

分科会｛学力向上について」　２名出席

⑥卒業証書授与式出席

幌別小学校(3/19)・幌別中学校(3/10)・登別中学校(3/14)・・・・・垣内委員長

鷲別中学校(3/14)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 森口委員

富岸小学校(3/19)・西陵中学校(3/12)・緑陽中学校(3/13)・・・・　赤井委員

登別大谷高等学校(3/3)・青嶺高等学校(3/1)・幌別西小学校(3/19)・武田教育長

２ 重点施策の評価

項　　目				１　危機管理・防災教育
点検内容				学校の危機管理マニュアルや防災体制の見直しと、自然災害を想定した「避難訓練を徹底すること」や、児童生徒が自らの命を守りぬくため「主体的に行動する態度」を育成するなど、防災教育の一層の充実を促す。
取組状況 平成24年度市内小中学校「津波避難訓練」の実施状況				
学校名	実施日	避難場所	実施学年	実　施　内　容
幌別小学校	10月24日	幌別中学校グラウンド	全学年	○地震の後、津波が発生したとの想定で、全学年幌別中学校グラウンドへ避難。
鷲別小学校	7月10日	鷲別公民館付近踏切手前	全学年	○基礎訓練を7/6中休みに実施し，地震時の基本的な対応であるその場に静止し放送を聞くことを身に付けさせる。(予告あり) ○避難訓練は，予告なしで7/10に実施。初めは地震による津波の可能性を考慮し，2線2階校舎に避難し，その後大津波警報発生を想定し，避難場所である若草町の自動車学校へ避難する。(時間の都合で踏切手前で学校へ戻り全体集会を実施)
若草小学校	9月24日	室蘭総合自動車学校 海抜30M (市１次避難	全学年	○各学級で、事前指導を行い大地震に伴い大津波警報が発令されたときの対応や避難訓練時の約束など徹底を図る。 ○大規模災害(大地震が発生し、大津波警報が発令されたこと)を想定し、全校児童で校区内の高台(市1次避難場所･室蘭総合自動車

		場所）		学校）への避難を実施。 〇避難時の約束を徹底し、安全かつ迅速に避難が出来るよう訓練をする。
富岸小学校	9月14日	亀田公園駐車場	全学年	1,地震発生に伴う大津波警報発令（全校放送）。 2,学年毎に避難。 3,亀田公園に避難・集合。 4,人員安全確認。 5,事後指導（学校長の話・気象台職員の話）。
青葉小学校	10月2日	高速道路青葉橋付近	全学年	〇北海道太平洋沿岸を震源とする大地震を想定し、教室内で机の下に入り頭部を守った後、グラウンドへ避難。その後、大津波警報が発令された想定で、グラウンドから幌別牧場前を経由して高速道路青葉橋付近へ避難する。
幌別西小学校	9月18日	望洋公園（80m）	全学年	〇地震・火災想定訓練時に津波を想定した避難訓練を実施。（グラウンドへの1次避難。引き続き、津波を想定した2次避難訓練。）
幌別東小学校	① 5月31日	ドミトリーほろべつ	全学年	〇地震後、大津波警報が出た想定で実施。 ・校内から職員玄関前駐車場に一旦避難。人数確認後、ペア学年で手をつなぎ、避難を開始する。 ・本来は幌別中学校が避難所であるが、中間点である高層建物のドミトリーほろべつまでとする。
	② 1月25日	幌別中学校	全学年	〇校内の放送機器が使用できないという想定で、外靴に履き替え、冬道を歩くという訓練。 ・校内から職員玄関前駐車場に一旦避難。人数確認後、ペア学年で避難開始。（基本手はつなぐが、道幅が狭いので、臨機応変に対処する） ・幌別中学校まで避難する。中学校では、体育館を借りて全体講評を行う。 ・中学校からは、校外班ごとに分かれ、教員の引率のもと下校する。
登別小学校	9月25日 予備日 9/27	時代村社員寮前広場	白雪幼稚園 登別小学校 登別中学校	〇合同避難訓練(雨天・荒天のため中止となり、教室で、東日本大震災ののDVDを視聴し、津波についての学習を実施した。）
緑陽中学校	5月10日	緑陽中学校	全学年	〇地震の避難訓練と兼ねて実施。
西陵中学校	7月2日	望洋公園	全学年	〇地震発生に伴う津波警報が発令された事を想定して、全校生徒を対象に避難場所まで避難する。
登別中学校	9月25日 予9/27	時代村社員寮前広場	全学年	〇雨天中止のため、教室で津波避難についての学習を実施する。
幌別中学校	8月30日	本校１線３階教室	全学年	〇大津波警報が発令されたということで、2線から1線3階教室へ移動。1年は3階図書室　2年は3階理科室　3年は音楽室に移動し、全員が避難し、その確認が終わったあと、全員体育館に移動して、反省をおこなった。
鷲別中学校	6月4日	室蘭総合自動車学校	全学年	〇津波警報が発令された想定で、室蘭総合自動車学校の上まで全校生徒が避難。 〇避難終了後、体育館にて全校集会を行い、津波や災害時の避難について指導

評　　価	すべての学校において、津波を想定した避難訓練を実施することができた。また、海岸線に近い学校においては、実際に高台などの避難場所まで歩き、子ども一人一人に現地を確認させることができた。
今後の方向性	地域と連携した避難訓練の実施など、日常生活における避難の取り組みを推奨していく。また、子どもたちが災害に対する知識を深め、自らの判断で行動できる防災教育を推奨する。

項　　目	**2　学校耐震化**
点検内容	富岸小学校及び登別小学校の「耐震診断」、鷲別小学校改築の「基本設計」、幌別小学校及び西陵中学校体育館の「耐震補強工事」に取り組む。
取組状況	**○耐震２次診断結果**　登別小学校:屋体Is値(最小値)0.29 富岸小学校:校舎1Is値0.46 校舎2Is値1.05 屋体Is値0.22 **○耐震補強工事後の結果**　幌別小学校:屋体Is値0.99　西陵中学校:屋体Is値0.72

○「鷲別小学校改築工事基本設計」の概要(住民説明会資料から H25.3.26)

１．改築に向けた経過

平成２３年１０月　　鷲別地区学校耐震化改築検討委員会の立ち上げ
平成２４年３月　　「鷲別小学校改築基本構想」の作成
平成２４年５月　　「鷲別小学校改築基本計画」を策定
平成２４年７月～　　平成２５年３月「鷲別小学校改築工事基本設計」を実施

２．基本設計のコンセプト

（１）敷地計画　次の事項に配慮し計画
①周辺の住宅への日陰の影響　②グラウンドを現在と同じ程度の広さを確保
（２）配置計画
①児童・生徒等と車の動線が交差を極力少なくし安全を確保
②車の安全確保や利便性の確保
③少年団等の活動時でも、地域の子供が遊べるスペースの確保
④その他
・周辺住宅地への騒音の軽減や日照の確保
・保育所へ敷地を開放し、子ども達がのびのび遊べるスペースの確保
（３）建物計画　基本計画に基づいたコンセプトにより計画
①多様な活動に対応した施設‥‥多目的ホール、２～４階多目的教室、会議室
②災害の教訓を生かした施設‥‥大津波時～津波避難ビルとなる学校施設、屋上までの避難階段
その他の災害時～防災備蓄倉庫、バルクタンク（LP ガス）
③教育等の中心地となる機能を有する施設･･･通級教室（ことばの教室)、多目的ホール、
ボランティア室、鷲別児童館の移転
④地域コミュニティを高める施設･･･‥多目的ホール、ボランティア室

⑤環境（エコ）に配慮した施設‥‥‥‥太陽光発電、発電状況の表示モニター、植樹など
⑥バリアフリーを意識した施設‥‥‥‥エレベーターの設置、段差の解消、施設表示の工夫など
⑦安全・安心に配慮した施設‥‥‥‥‥敷地内通路に歩道の設置、オートロックドア、防犯灯など
⑧その他
国道からの騒音への配慮、児童玄関前に屋外活動等に活用できるスペースの確保、建物内の移動距離がなるべく短くなるように配慮、体育館・多目的ホールの地域開放を考慮し玄関とトイレそれぞれに計画など。

評　　価	体育館の耐震化を優先させたことにより、本年度までに、５つの中学校区すべてに、避難所としての役割を果たすことができる学校施設が整った。
今後の方向性	安心・安全な学校施設をめざし、改修の年次計画に基づき、耐震診断や耐震改修に取り組んでいく。

項　　目	**3　学力向上対策**
点検内容	全国学力学習状況調査の結果を踏まえ、各学校が策定する学力向上改善プランの検証・改善サイクルが機能するよう各種資料の提供などを通して、学校の取り組みを支援する。また、引き続き、少人数指導、習熟度別指導などのきめ細かな学習指導に取り組むほか、放課後や長期休業中の補充学習を促す。

取組状況

課題検討委員会（第１回学力向上対策会議）　7/19

〇全国学力学習状況調査への全学校参加（抽出校+希望利用）

・結果公表（各学校ごとに公表するが具体的数値は公表しない）
　　教育委員会は、「教育委員会の点検、評価」を作成し、公表する。
・テスト後の自己採点の実施　マネジメントサイクルによる取組

〇チャレンジテストの活用

・学年末版を各学校で取り組む。
・教科、時間外の学習、家庭学習等で活用する。　・トライやるウィークへの参加

〇学習指導要領に基づく教育課程の実施

・授業時間の確保　・基礎基本の習得、活用する力など指導内容に沿った授業の実施

〇補充的な学習の取組

・朝学習、放課後の補習、長期休業中の学習サポート　・読書活動の推進
・「早寝、早起き、朝ごはん運動」の推奨　・通学合宿の実施など生活習慣の改善の取組

〇教師の指導力向上

・公開研究会・校内研修による授業研究の推進　・職場内研修（ＯＪＴ）の強化
・学力向上に関わる研修会への積極的な参加　・少人数指導による指導方法の工夫改善

登別市学力向上集会（第２回学力向上対策会議）　11/14

１　ねらい

今年度の学力・学習状況調査の結果を踏まえ、市内各校がより一層危機意識を高め、積極的に課題解決を図る機会とする。

２　各学校持参資料の内容について

《平成２４年度全国学力委学習状況調査結果の報告》

(1)学力学習状況調査の分析　①全道・全国平均との比較・分析　②学習指導要領の領域別の分析

(2)課題の把握　　①学力テストの結果からの課題　②生徒質問紙の結果からの課題

(3)課題解決の取組　①個別指導の取扱　②指導方法の工夫・改善　③家庭学習の方法　④その他

登別市学力向上集会（第３回学力向上対策会議）　2/18

１　ねらい　学力向上は学校教育の中心課題であることから、今年度の学力・学習状況調査の結果を踏まえ、市内各校がより一層危機意識を高め、積極的に課題解決を図る機会とする。

２　オール北海道で目指す目標　第２期のまとめ

【国語】　「読むこと（説明的な文章)」　実践報告・結果報告

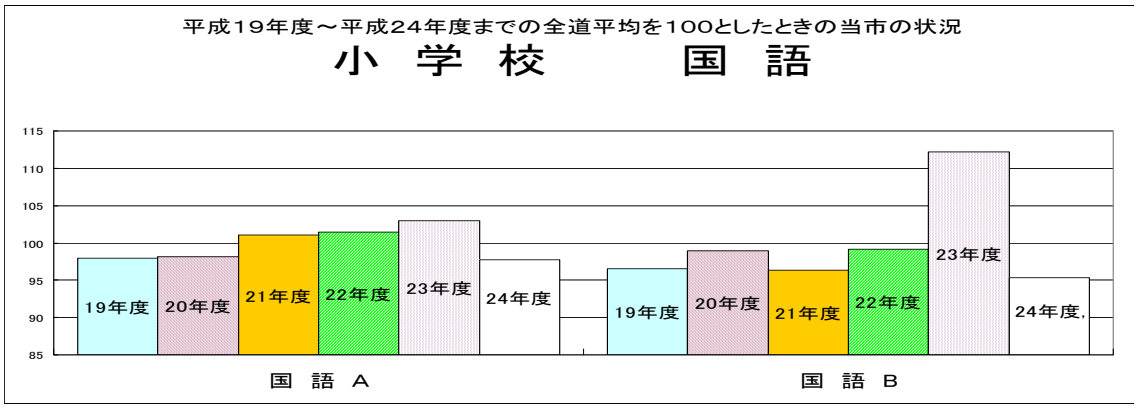
【数学】　「数量関係（小学校)、関数（中学校)」

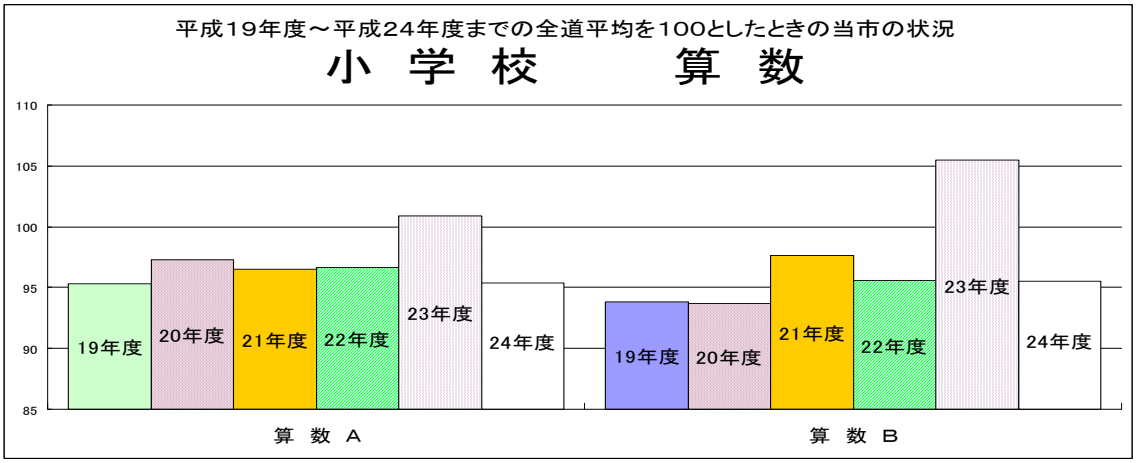
３　自校で取組んでいる学力向上の実践　実践報告・結果報告

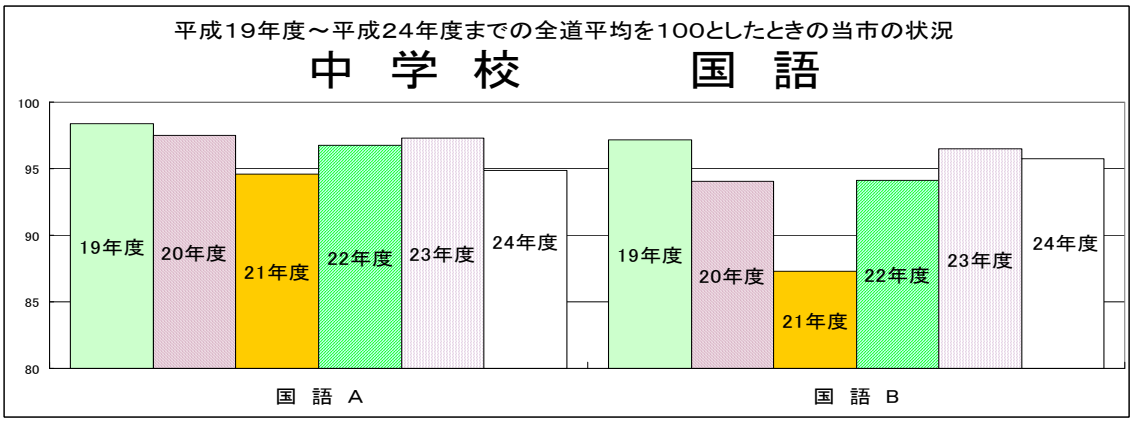
長期休業中(夏休み)の学習サポートの実施状況

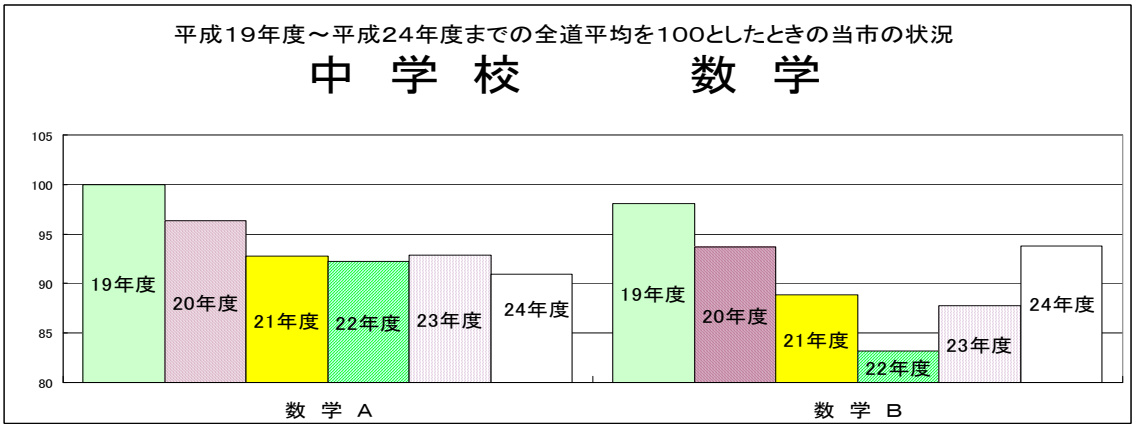
学校名	名　称	期　日	対　象	教 科	参加数	内　容	指導者
幌別小	チャレンジ学習	7/26･27	4～6年	国･算	約１７０名	過去のチャレンジテスト 教科書の問題(既習事項の復習)	個人懇談のため担任外で対応
鷲別小	ひなわしチャレンジ講座	7/26･27	4～6年希望者	国･算	５０名程度	チャレンジテスト･学テの過去問題 漢字検定の練習問題　他	4～6年担任を中心に教員が交代で指導
富岸小	学びサポート	7/26･27	5･6年希望者	国･算	のべ１００名	チャレンジテスト 過去問題･ドリル	教職員･地域ボランティア
登別小	サマースクール	7/26～30 ３日間	4～6年生希望者	国･算	のべ２０６名	○全国学テ過去問題 ○教務作成:基本･活用問題	○教員が交代で指導
青葉小	夏休み学習サポート	7/26～30 ３日間	5～6年	国･算･理	約60名	基礎･基本問題　チャレンジテスト問題 全国調査の過去問題	出勤している全教員
若草小	若草学びタイム	7/30,7/31,8/1	２～６年	国･算	約１１０名	チャレンジテスト･漢字、計算プリント 全国調査過去問題	学級担任が中心に全校体制の中で指導
幌西小	夏休み学習サポート	7/27、7/30	４～６年	算数	約70名	数と計算の問題(オール北海道で目指す指標第1期)	全教員が指導
幌東小	チャレンジスクール	7/26,7/27	２年生以上希望者	国語･算数を中心に行う	約60名	各学年の基礎的･基本的な学習内容、下学年の学習内容、その他	全教員を各学年に割り当てて指導する
幌別中	夏休み学習会	7/26～8/9 8/15～17	希望者	5教科	のべ１００名	5教科ワーク プリント	学年単位の全教員
鷲別中	1･2年学習会	7/25～26	1･2年希望	国･英･数	約60人	基礎学力の定着	学年担当教師･教科担任
	3年夏季講習	7/27/30～8/4	3年希望者		約30人		
緑陽中	学習室	7/30～8/3	中３	国数英社理	希望者	入試問題、問題集、プリントなど	３学年教師
西陵中	学習サポート	随時	１～３年				全教員
登別中	夏休み学習会	7/25~31,8/1,2,3	２，３年	数学	希望者	１，２年の基礎学習	教科担任

これまでの当市の全国学力調査の状況（全道平均を100として比較）

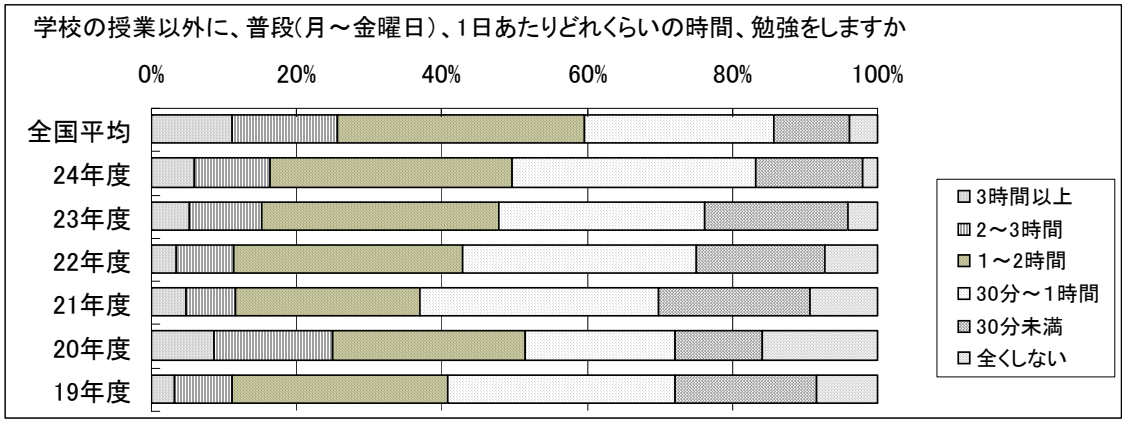




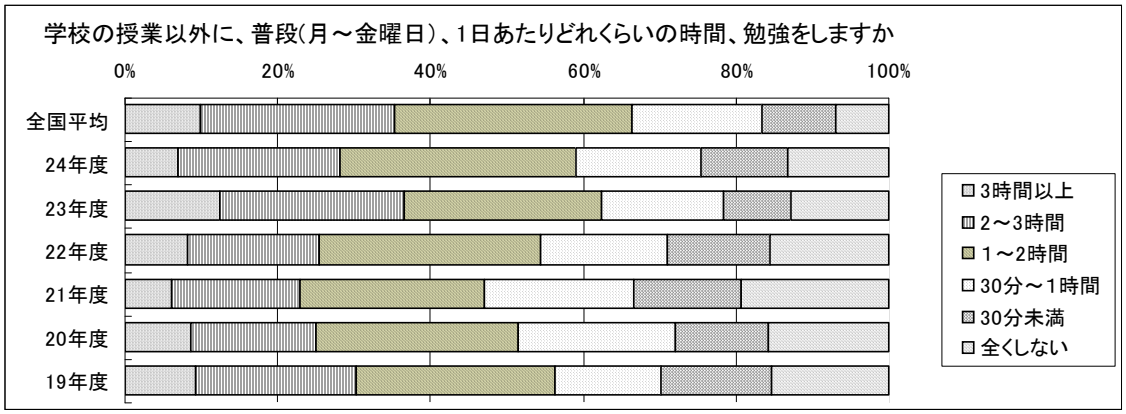




全国学力調査における当市小学校６年生の家庭学習の状況



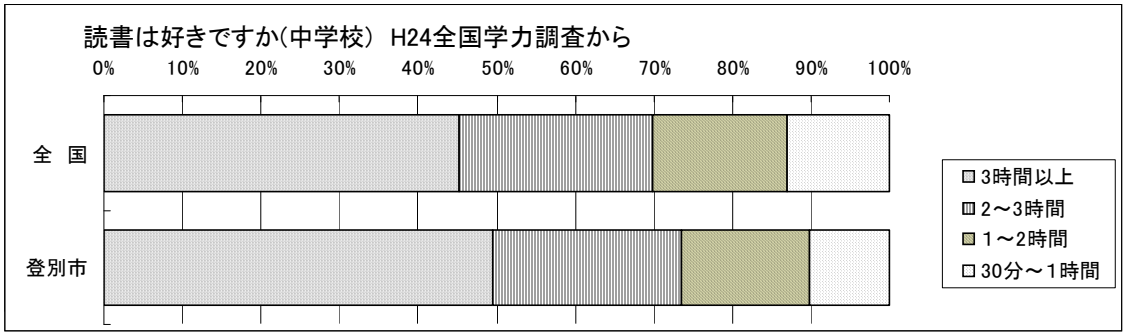
全国学力調査における当市中学校３年生の家庭学習の状況



全国学力調査における読書の状況

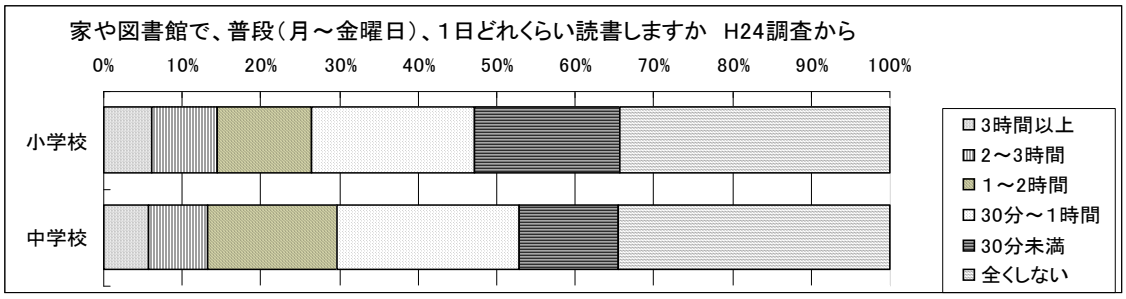
①読書することは好きか？

平成２４年度の全国学力学習状況調査において「読書が好き」「どちらかといえば好き」と答えた登別市の小学校６年生は７２％で全国平均とほぼ同程度であった。中学３年生は、７３％であり、これは全国平均をやや上まわる状況となっている。



②毎日、どれくらいの時間読書しているか？

次に、家や図書館での普段（月～金）の読書時間の調査では、全く読書をしないと回答した児童生徒は、小・中学校ともに３４％にのぼり、３人に一人は全く本を読んでいないことが明らかになった。これは、全国平均が全く読まないと回答した児童が２０％程度であることを比べるとかなり高い割合である。

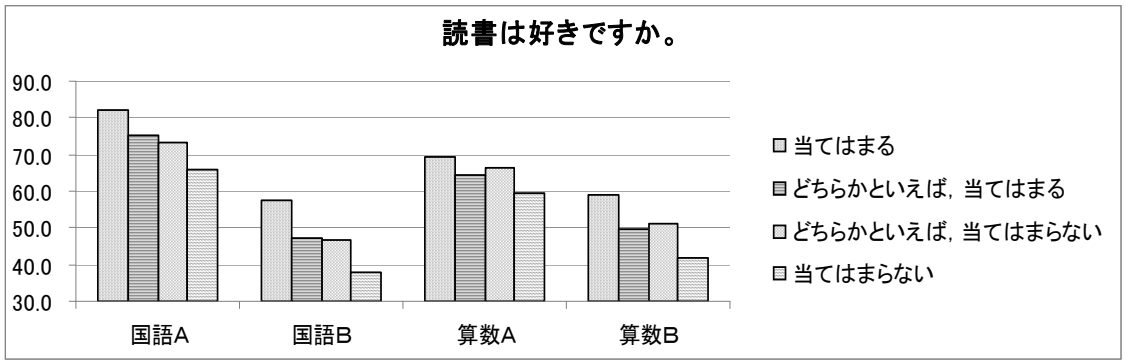


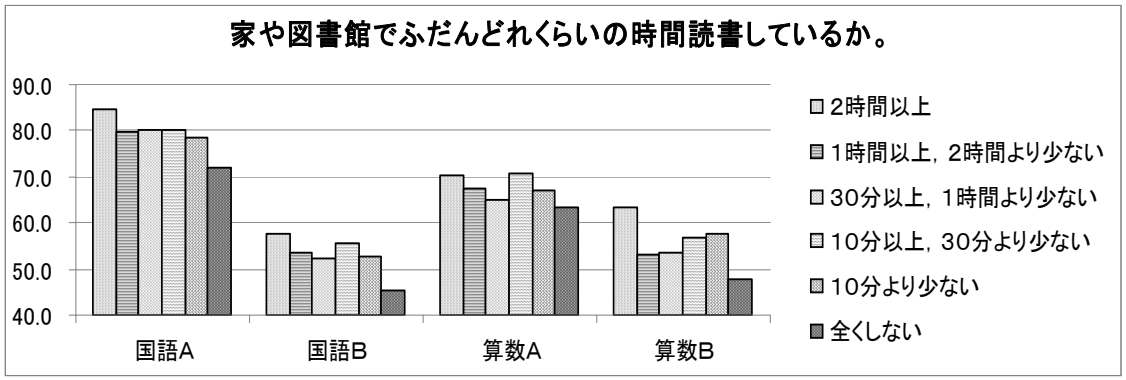
③読書と学力調査正答率に関係はあるのか？

次に、全国学力学習状況調査の結果を正答率が高い方から４つのグループに分け、読書との関係を考察してみると、「読書が好き」（グラフでは「当てはまる」）と答えた児童生徒の正答率と、読書はきらい（グラフでは「当てはまらない」）と答えた児童生徒の正答率には、国語で１０ポイント以上、算数でも５ポイント以上の差がみられた。

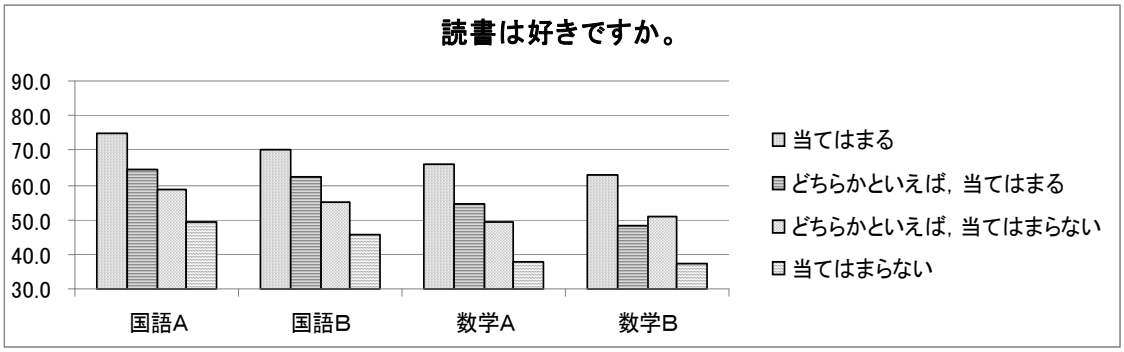
また、読書時間の長さと正答率の高さには、大きな関係は見られないが、小学校においては、「全く読書をしない」と答えた児童は、国語、算数ともに、正答率が低くなっている。このことから、毎日読書することはもとより、「読書の質」が大切であることが窺われる。

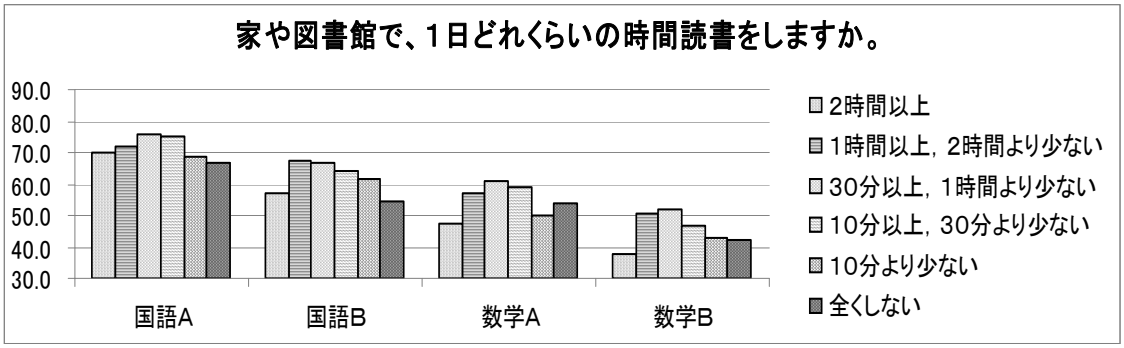
全国学力調査結果と読書状況（小学校６年生）





全国学力調査結果と読書状況（中学校３年生）





評　価

市内の学力・学習状況調査の概要

今年度は、全国調査も行われ、当市においては、小学校１校、中学校２校が抽出校として実施した。また、それ以外の学校においては、北海道における全国学力･学習状況調査問題を活用した学力等調査として参加し、１０月はじめには、抽出校、希望利用校の結果が送られてきて各学校での状況が明らかになった。教育委員会では、直ちに抽出校と希望利用校の合算を行い、市としての学力調査結果としてまとめ、１０月の校長会で報告した。

調査結果の概要として、小学校においては、国語Ａ・Ｂ、算数Ａ・Ｂのすべての学力調査において、平均正答率が昨年の結果を下回るなど課題がみられた。中学校においは、ここ数年厳しい状況が続いていたが、平成２４年度調査では、全道平均に近づきつつある。しかし、学校間の格差が広がり、市内全体での取組の強化が必要である。本年度、はじめて学力調査の対象となった「理科」においては、実験、観察の意味や過程について考える問題が多く、しっかりと実技を行っていないと困難な問題となっていて学校間での差が大きく課題がみられた。

学力調査のＡ問題では、漢字の書き取りで全国平均と２０ポイント近くの差がみられた問題があった。これは、全国の平均が８０％を越える状況になっているにも関わらず、当市の状況が数年前と変わらないことが原因と考えられる。習得を図らなければならない基礎的な問題についてのしっかりした取組が必要である。また、長文を読んで解答する問題に対しての無解答率が高いのは、読解力に課題があると考えられる。日常的な読書の推奨など文に慣れる取組が大切である。

学習状況調査においては、学校での授業以外の学習時間が全国と比べて短く、全くしないと答えた児童生徒も多いことから、家庭学習の手引きの発行、宿題の日常的な取組、長期休業中の補充的な学習サポートの充実など、学習の習慣化をめざした取組が必要である。生活面では、インターネットの利用時間や携帯電話所持率の増加など、新たな課題も見られる。

今後も、学習と生活の両面において、学校と家庭の連携した取り組みが大切である。

今後の方向性

平成２５年度の具体的な学力向上対策

～読書を奨励し、読解力を高め、学力向上をめざす～

読書をすることで、言葉を学び、感性をみがき、表現力を高めることができると言われている。読書習慣と学力の間には関連があり、当市において「読書の好きな」児童生徒の方が学力調査において高い正答率を示していることから、次年度、学力向上対策の柱の一つとして「読書好きの子どもを育てる」ことをねらいとして、各学校において望ましい読書週間の定着を図る取組を推奨する。また、その成果を下記の具体的な目標と手だてによって検証する。

○年間読書ページ数の設定

目　標：児童生徒全員が、年間３,６５０ページ読書の達成

手だて：生活リズムチェックシートを活用した読書週間の定着

授業における学校図書館の利用の奨励

○学校図書館の貸出率の向上

目　標：すべての児童生徒が年間５冊以上の本を借りる

手だて：図書システムを活用したデータの収集

図書司書を配置し、学校図書館の環境整備

推薦図書（スタンダード図書）の選定

１学期中に新刊図書購入計画を立て発注

○「朝読・家読」運動の推進

目　標：全国学力学習調査における「読書好き」の割合の向上

全国学力学習調査における「全く読書をしない」の割合の減少

手だて：保護者への啓発「図書だより」の発行

学校での朝読書の取組強化

ビブリオバトル(書評ゲーム)の奨励

児童生徒の自主的活動など図書イベントの開催

子ども読書の日(4/23)・学校図書館の日(6/11)・読書週間(10/27 ～ 11/9)

○市立図書館・ボランティアとの連携

目　標：読書感想文・読書画コンクール参加応募数の増加

手だて：移動図書車「こぐま号」の巡回に合わせた貸出の奨励

各学校図書担当者のための研修会の実施

読み聞かせの会など図書ボランティアの積極的な活用

項　　目	4　教職員の指導力向上
点検内容	教育実践研究奨励校を指定し、先進的な授業研究や研修活動を支援するとともに、その実践成果を活用するなど学校における職場内研修（ＯＪＴ）機能を強化する。また、道教委が計画する経験年数や職務内容に応じた研修会への積極的な参加を促すほか、引き続き、若手教員の指導力向上をめざした「巡回指導教員」の活用を図る。

取組状況

○胆振管内教育実践奨励校：３校　　登別市教育実践奨励校：７校

○学力向上のための研修会参加状況

5/8	第１回「胆振ブラッシュアップセミナー」	胆振振興局	９名 初任研
6/25	第２回「胆振ブラッシュアップセミナー」	胆振振興局	４名 運営研
6/27	第３回「胆振ブラッシュアップセミナー」	胆振振興局	12 名 10 年研
7/19	第１回「算数ネットワークセミナー」	登別市民会館	１名
8/27	第１回「国語科ブラッシュアップセミナー」	室蘭栄高	１名
11/12	小学校教育課程改善協議会	蓬峠殿	６名
12/26	中学校教育課程改善協議会	蓬峠殿	５名
11/30	第２回「算数ネットワークセミナー」	苫:豊川小	１名
5/29 30	生徒指導研究協議会	広域センター	４名
9/10	授業力向上研修会（国語・算数数学）	広域センター	10名

○職務研修

初任者研修（一般研修・地域研修・宿泊研修・校内研修）	対象者 9 名
１０年経験者研修（共通研修・教科指導研修・生徒指導研修・社会体験研修）	対象者 12 名

○学力向上をめざした公開研究会の実施状況

学　校　名	月　日	曜	教科	研　究　主　題	研究指定
青葉小学校	9月26日	水	算数	わかる喜びを知り、意欲的に学ぶ子どもの育成	市奨励校
幌別小学校	9月28日	金	国語	自ら学び自分の思いを豊かに表現する子どもの育成	学校力実践校
幌別東小学校	11月8日	金	算数	わかる喜びと考える楽しさを実感できる子どもの育成	管内･市奨励校

○巡回指導教員活用事業

	学　校　名	指導学年・指導教科・指導時数
本 務 校	登別市立幌別小学校	１年・４年・６年　国語・算数＝２時間
兼務校１	登別市立鷲別小学校	１年・６年　国語＝１時間
兼務校２	登別市立若草小学校	１年・６年　国語＝１時間

兼務校の状況

本校において，６年生担任については，国語科の１単位時間の授業の進め方に，１年生担任については学級経営を背景にした国語科の入門期の指導に課題がみられたため，それぞれが授業の指導技術を高め，児童の変容につながるように，OJT の視点をもちながら，TT 指導を行った。

【子どもの変容や若手教員等の声】

【５月中旬】
○子どもたちは，国語科の学習に対する苦手意識が感じられた。
○１時間の授業に向かう前の教材研究を充実させるよう指導・助言を行うとともに，○JTの視点でTT指導を行った。

⇒

【２月下旬】
○児童から「国語が楽しい」という声が寄せられ意欲的な姿が見られるようになった。
○若手教員は，手本となる姿から指導技術を吸収し，自信をもつとともに，授業の進め方を確立できた。

【効果的な取組とそのポイント】

週に1回の指導であるため難しい面があったが、指導事項を事前に確認してTT指導や時には模範授業を行い、授業の様子をメモやメールで知らせ、その後の指導のポイントの確認、授業の準備などの質問を受けることで、教師の授業に臨む姿勢にゆとりが見られるようになった。

○学校力向上に関する総合実践事業実施報告書（推進校抜粋）

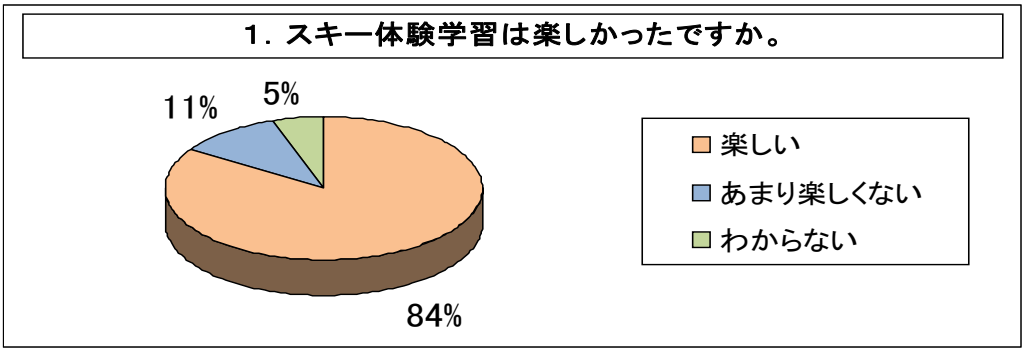
具体的取組内容	成果及び課題	到達目標に対する結果
○学力向上プランの策定 ・学校・学級プランの作成 ○全国学力調査結果分析	○全学級の児童の実態、指導の在り方を交流するために、学力向上に関わる学級経営交流会を学期毎に実施する。	保護者アンケートの上位2段階の評価は88.3%
ⅰ）基礎的・基本的な学習内容の習得を目指したチャレンジテスト、全国学力調査の問題を活用した授業づくり	○チャレンジテストやサポート問題等の実施、身に付いていない単元等は学び直しの機会を設定した。 ○過去問題の授業、家庭学習で活用	○授業アンケート 満足度　88.3% ○TT年間　国764　算数736 ○研究授業各担任年3回実施
ⅳ）基礎的・基本的な学習内容の習得と活用する力を高める研究の推進	○全国学力況調査で全国平均を概ね上回る。 ○学校としての基本型を作成し、各学年の発達段階に応じた内容にしている。	○全学年概ね達成 ○保護者等アンケート前年度比+5.6
○長期休業におけるチャレンジテストを活用した補充的指導の機会の設定	○今年度は補充学習を実施。 ○チャレンジテストやサポート問題、個に応じたプリントの使用。	○参加者数（4～6年） 夏季休業　167名 2日間 冬季休業　83名　1日間
○新体力テストの実施と分析 ・５年＝全種目実施と健康実態調査の実施 ・４年･３年＝４種目を実施。	○５年生は新体力テスト全種目、３、４年生は4種目実施できた。 ○俊敏性や持久力を高めるために全校で縄跳びを実施。	○計画通りの種目数は実施できた。 ○ほとんどの項目で全国平均を下回った。
○近隣学校との連携を深める。	○行事や日常の指導、通知表の作成など、実践的なテーマとしたミニ研修を実施した。	○年間18回実施した。
○学校支援地域本部事業のコーディネーターを中心とした体験活動	○田植え、稲刈りなどの体験活動を計画通り推進できた。加えて地域の方の協力により乗馬体験も実施できた。	○学校支援地域本部事業への参加の中で、体験活動等を行うことができた。
○管理職の授業参観と指導	○管理職による授業参観をほぼ毎日実施	○前年度比　+5.6
○視察の受入とＨＰへの研究成果の掲載 ○公開研究会の開催	○５月　文部科学省財務課長 ○８月　北海道議会文教委員 ○12月　道学校教育局長	○９月　公開研究会実施 ○ＨＰに研究の概要やミニ研修について掲載

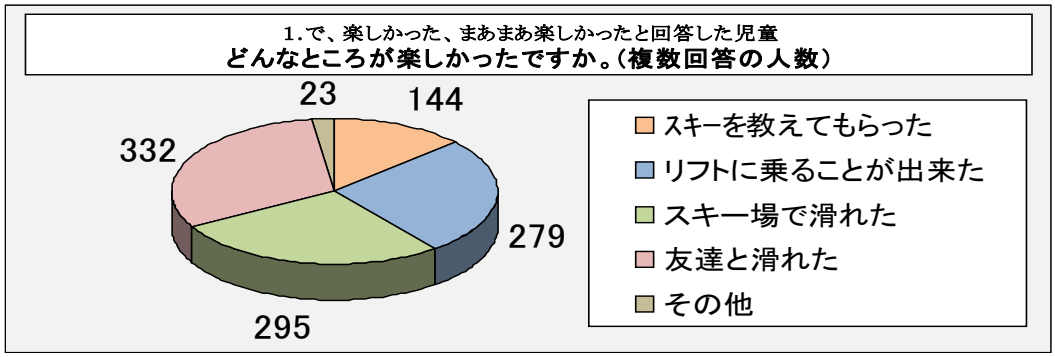
評　　価	学校力向上総合実践事業では、若手教員をＯＪＴの機能を生かして育成する視点に立ち、実践校の中堅教師による実践的な研修が行われ実践校だけではなく、近隣校からの参加も得て実施することができた。また、教育局の主催する学力向上に関する研修会への参加を奨励することができた。
今後の方向性	学校力向上総合実践事業・巡回教員活用事業など学校間で連携する研修を推進することで、市内全体の教職員の資質能力向上に努めていく。胆振教育局と連携した各種研修の積極的な参加を促す。

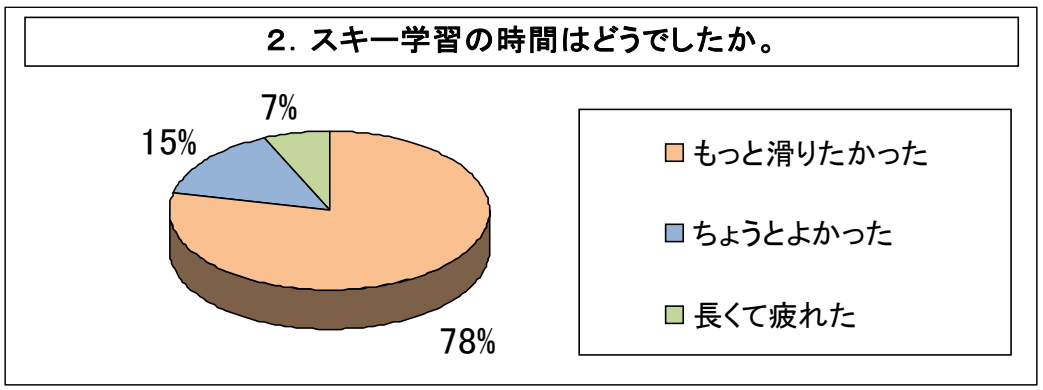
項　　目	**5　特別支援教育**
点検内容	各学校のコーディネーターや教員の資質、指導力の向上を図るとともに、介助員や支援補助員の適切な配置に努める。

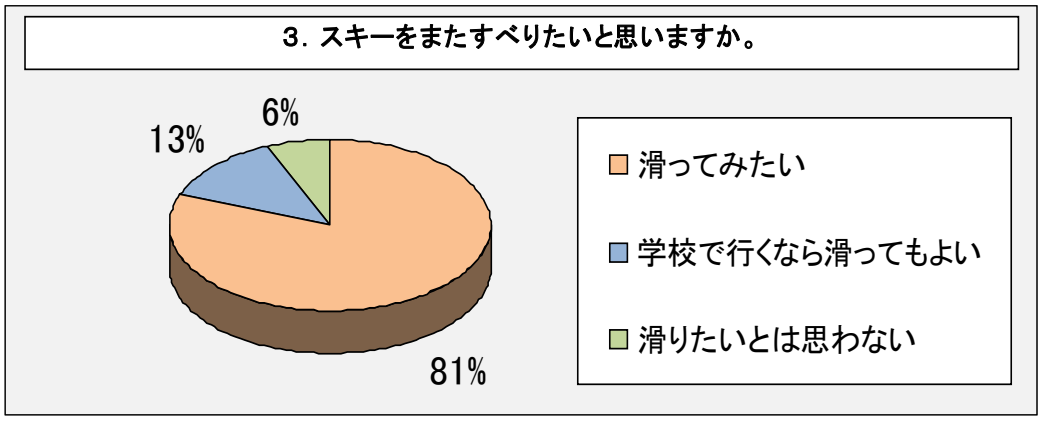
取組状況	**○市内小中学校の特別支援学級の状況** 小学校：知的 5学級 14名／自閉情緒 7学級 36名／肢体 2学級 3名／合計 14学級 53名 中学校：知的 5学級 9名／自閉情緒 4学級 10名／肢体 2学級 3名／合計 11学級 22名 担当教員 35名／介助員 9名／学習支援補助員 16名 **○登別市特別支援教育コーディネーター研修会** 8/29 登別市市民会館 講師：北海道特別支援教育センター 視覚障害教育室長 能登谷 睦 氏 テーマ：障害の特性とその教育的対応の在り方について 参加者：市内各学校コーディネーター・のぞみ園・教育委員会職員 ２２名 **○登別市特別支援教育振興協議会 研修会** 第１回研修会 8/16 若草小学校 １６名参加 講師：室蘭養護学校 塩崎 剛 氏 テーマ：ＷＩＳＫ－Ⅲ実技 第２回研修会 １月 若草小学校 １１名参加 講師：伊達高等養護学校 松本 研司 氏 テーマ：将来に向けた支援のあり方、進路の現状と課題
評 価	北海道特別支援教育センターや近隣の養護学校から講師を招いて、専門的な研修に取り組むことができた。また、介助員・支援員の配置については、各学校の支援学級の実情を把握し、学校と十分協議して配置することができた。
今後の方向性	特別支援学級の児童生徒一人一人すべてその状況に違いがあり、また、日々変化するものであるので，学校との連携を深め、適切な人的な配置や施設設備の工夫、研修の持ち方を検討していく。

項 目	**6 特色ある教育活動**
点検内容	北国らしいスポーツの体験と体力向上をめざしたスキー・スケート学習については、本年度より、全小学校で実施（青葉小学校はスケート学習）するので、安全で有意義な学習となるよう支援する。
取組状況 スキー体験学習	**○参加児童アンケート** **回答 627人 対象校：幌別小、幌西小、幌東小、鷲別小、 若草小、富岸小**

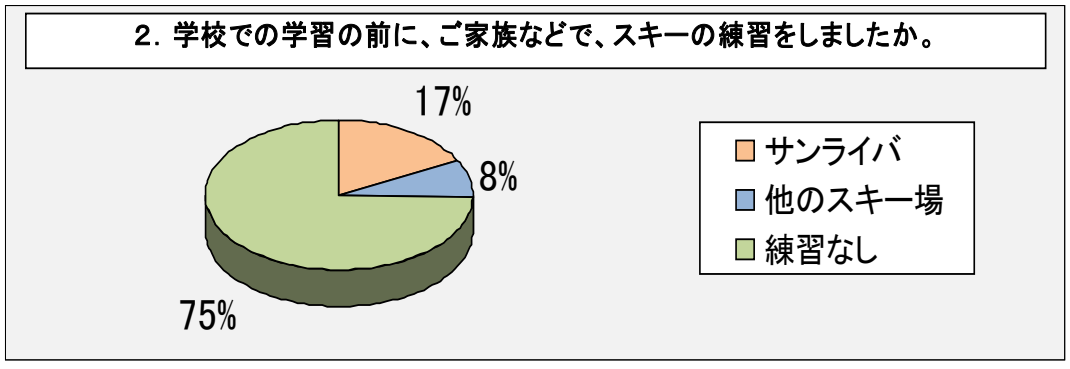


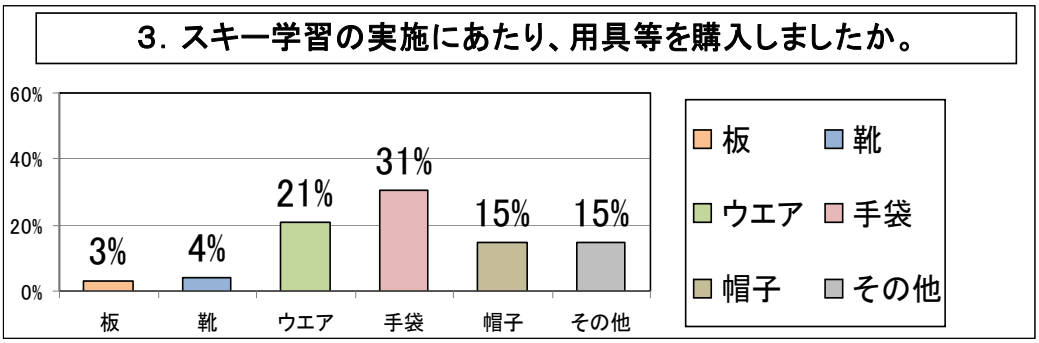






○保護者アンケート　回答数444人





○実施日と参加児童数

学 校 名	実施日	参加児童数
幌別小学校	2/20	１１７名
幌西小学校	2/19	１３１名
幌東小学校	2/15･21	４１名
鷲別小学校	2/14	８３名
若草小学校	2/25	１０１名
富岸小学校	2/12･13	１７１名

○引率・指導・協力者の状況

引率教諭	ｽｷｰ連盟指導者	地域指導者	PTA協力者	合　計
８名	７名	２名	１７名	３４名
９名	７名	０名	３名	１９名
８名	５名	７名	２名	２２名
１０名	７名	４名	３名	２４名
１０名	５名	４名	０名	１９名
１７名	１１名	８名	１名	３７名

評　　価	本年度新たにスキー学習を実施した富岸小学校、鷲別小学校においても、参加児童の「楽しかった」「またすべりたい」との割合が高かった。また、指導者もスキー連盟のほか、学校支援本部事業コーディネーターの協力により確保することができた。
今後の方向性	次年度より、体育の授業として学校の教育課程に位置づけてもらい、北海道らしい冬のスポーツ学習としての定着を図っていく。

項　　目	**7　英語（国際理解）教育**
点検内容	小・中学校９年間を見通した英語学習を実施するため、関係者の協力をいただき「登別市英語教育推進プログラム」を作成する。
取組状況	**○平成２４年度ＡＬＴ派遣日数**

小学校	幌別西小	７９日	幌別東小	４３日	青葉小	４１日
	若草小	４１日	富岸小	７９日	鷲別小	４２日
	登別小	４２日	幌別小	４３日	合　計	４１０日
中学校	緑陽中	１２１日	西陵中	８０日	登別中	４２日
	幌別中	８３日	鷲別中	８４日	合　計	４１０日

○登別市英語教育推進懇談会　12/18

参加者：市国際交流担当・観光振興Ｇ・各校英語担当・市教委

内　容：各校の英語教育の現状、ＡＬＴの活用

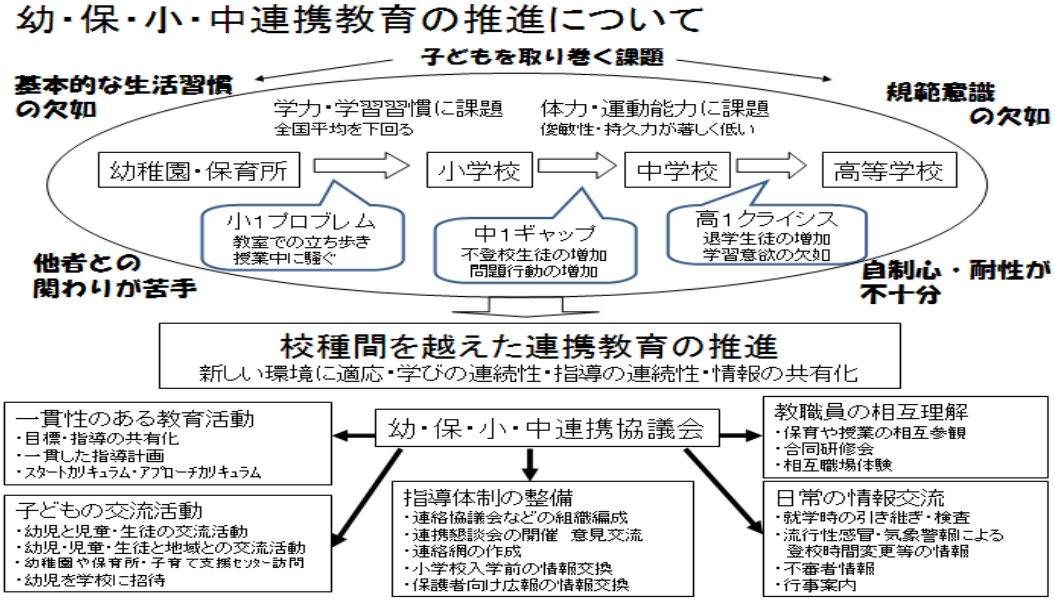
○登別市英語教育推進協議会　2/27

参加者：校長会代表・市教研英語部会長・市国際交流室・観光振興Ｇ
市Ｐ連代表・工学院職員・ＡＬＴ・英語教育拠点校

	内　容：英語教育推進プログラムの策定の指針について 登別市の英語教育の展望について 英語教育児童生徒アンケート分析結果
評　　価	英語教育推進協議会を立ち上げ、学校関係者と市内各機関の有識者と英語教育について意見交換をすることができ、今後の方向性や推進プログラム作成にあたっての方向性を確認することができた。
今後の方向性	英語教育懇談会や推進協議会で出た意見をもとに、学校代表者によるワーキンググループにおいて「登別市英語推進プログラム」を策定していく。

項　　目	**8　幼･保･小･中連携教育**
点検内容	子どもたちが、新しい環境に馴染めずに生じる様々な問題に対応するため、指導の連続性や望ましい学校間のあり方について検討するなど、円滑な接続が図られるよう努める。

取組状況



〇第1回幼保小中連携懇談会　8/31

内　容：①校種間の連携した教育　・幼・保と小学校の連携・中学校家庭科「幼児の生活と遊び」

②意見交換　・登別の子どもたちの状況（基本的生活習慣、規範意識など）

・現在取り組まれている連携の現状と課題について

・連携協議会設置にかかわる課題、要望について

出席者：白菊・白雪幼稚園長リリー文化幼稚園長・カトリック聖心幼稚園長校長会小・中学校長代表

保健福祉部子育てＧ総括主幹　教育委員会：参与・学校教育Ｇ総括主幹・担当者

〇第２回幼保小中連携懇談会　10/31

内　容：①日常の交流について　②指導者、子どもの交流について　③就学にかかわる連携について

意見交換　・本年度からの連携事業について　・連携協議会設置にかかわる課題、要望について

出席者：白菊･白雪幼稚園長・リリー幼稚園長・カトリック幼稚園長　校長会代表：小・中校長

保健福祉部：子育てＧ総括主幹　教育委員会：参与・学校教育Ｇ総括主幹・担当者

１，日常の情報交流について

事　　案	発信元	内　　容	情報提供先
学級閉鎖等の状況	学教G	・学校名・学年・罹患率・欠席者数	幼協事務局・子育て
気象警報等による 緊急対応	学教G 学　校	・暴風雨雪警報時：市内一斉の対応 ・暴風雨雪注意報：校区ごとの対応	G TEL 又は FAX
不審者情報	社教G	・警察からの情報	幼協事務局へ FAX
行事案内	学　校	・学芸会･運動会･卒入学式案内	各幼稚園
学校だより	学　校	・月１回作成　１部配布	近隣の幼・保に
ふれあいウィーク案内	学教G	・事業一覧（掲示用）　10/29 ～ 11/2	各幼稚園・保育所
教育委員会広報	社教G	・年３回発行（10 月創刊）	各幼稚園・保育所

２，指導者・子どもの交流について

１日体験入学	新入学予定児	・小学校教育に慣れるために低学年と交流 ・幼稚園・保育所指導者の参観
幼保小中合同避難訓練	登別地区	降雨により２回延期となり本年度は中止
総合的な学習の時間	幌別西小	11 月:富士保育所へ３年生が地域の施設調査学習
生活科	幌別東小	11 月:東保育所と１年生との交流学習を予定
総合的な学習の時間	幌別中	11/7:２年生が東保育所、白菊幼稚園へ職業体験
家庭科	西陵中	11/14.15:白菊幼稚園へ２年生が訪問し職業体験学習
家庭科	鷲別中	10/23･24 鷲別保育所に３年生が訪問し保育体験

３，就学にかかわる連携について

事 業 名	担当	内　　容
就学指導委員会 ９月～ 12 月	学教G	○適正就学に向けた組織 ・障害が疑われる子の情報提供 ・就学指導委員の訪問観察・担当者との懇談 ・諮問：11/21　・総合検査：11/26　答申：12/19 ・検討審査：12/6・12/7・12/10・12/11
入学時簡易検査	学教G	○１０月実施　日程等の情報提供 10/10 鷲小 10/12 西小 10/15 青小 10/16 東小 10/17 幌小 10/23 富小 10/25 登小 10/26 若小
1 日体験入学	各学校	○２月各学校で実施　日程等の情報提供 ・保護者説明会への幼稚園・保育所関係者の参加
引き継ぎ	幼･保と小学校	○幼稚園要録・保育要録の引き継ぎ ・引き継ぎ方法の確認（訪問・郵送・電話等）

評　　価	幼保小中連携懇談会を２回実施することにより、各学校種の状況を交流することができた。不審者、暴風雪時の対応、流行性の疾病などの情報交流、合同避難訓練の実施、中学生の保育所訪問、幼･保と小学校の合同引き継ぎなど具体的な実施に結びつけることができた。
今後の方向性	幼保小中連携協議会を実施し、日常の情報交流について、幼児と児童生徒の交流、指導者の交流など具体的な計画を推進していく。

項　　目	9　地域に信頼される学校
点検内容	「教育ふれあいウィーク」では、学校の一斉公開や特別支援教育に関する懇談会などに取り組みその充実を図るとともに、「教育広報」を発行し、教育活動の積極的な情報発信に努める。
取組状況	**平成２４年度「教育ふれあいウィーク」実施状況** **〇一斉学校公開日・・・・・・・・・・10月31日（水）11月1日（木）　11月2日(金)** 会　場：(10/31)：幌別中･緑陽中 (11/1)：東小･登小･西小･青小･若小･幌小･富小･鷲小･鷲中･登中･緑中･西陵中 (11/ 2)：幌東小 内　容：市内全小中学校の一日の様子(授業･休憩時間･給食など）を公開 参観者：保護者974名(昨年914名)　地域等152名(137名)合計1126名(1051名) 視　察：垣内委員長＝幌中 森口委員＝鷲中　　武田教育長＝緑中・幌中・幌小・東小 評　価：昨年度より保護者・地域等の参観者ともに増加し、学校公開の意義が定着してきた。柔道の授業には、総務教育委員会の議員の視察があり、実施状況を確認していただくことができた。 **〇特別支援教育懇談会・・・・・・10月29日（月）** 内　容：登別市内の障がい者団体と教育委員会が市内小中学校の特別支援教育のあり方について意見交換を行う。 参　加：登別市障がい者福祉関係団体連絡協議会：２名 肢体不自由児者父母の会：２名　　手をつなぐ育成会：３名 評　価：特別支援教室視察の感想、特別支援教育の現状、質問事項に対する回答などについて率直な意見交換を行うことができた。 **〇幼保小中連携懇談会・・・10月31日（水）** 内　容：登別の子どもたちが校種間の生活環境や学習環境に適応し、心豊かに健やかに成長するために、指導の連続性や望ましい連携のあり方について検討し、円滑な接続をめざし関係者懇談会を実施する。 参　加：白菊・白雪幼稚園長・リリー文化幼稚園長・カトリック聖心幼稚園長 小学校校長会代表・中学校校長会代表 内　容：日常の情報交流・指導者、子どもの交流・就学指導委員会への協力 各施設の担当者の確認、幼保小中連携協議会の設立に向けて 評　価：本年度から実施できる情報交流の内容、連絡方法を確認したり、就学指導委員会への協力依頼など連携に向けた具体的な話し合いを進めることができた。 **・・・・協　賛　事　業・・・・・** **〇教育講演会・・・・・・・・・・・・・・10月25日（木）** 主催者：登別市教育研究会　教育講演会　15:00～16:30 講　師：非営利活動法人教育支援協会代表理事　吉田博彦　氏 民間からの教育改革を提唱し､文科省や教育委員会との協力によって､

	全国で様々な教育事業をおこし、地域教育力の育成を行っている。 参　加：市内小中学校職員　２３０名　教育指導専門員４名 評　価：「コミュニティスクールと私たちの未来」の演題で、学校と地域との今後の連携の在り方について具体的なお話しをしていただき、教職員がコミュニティスクールについて理解を深めることができた。 **○特別支援学級作品展・・・・・・・・10月22日（月）～26日（金）** 内　容：作品を通した交流により間接的に思いを感じたり伝えようとする態度を育成し、コミュニケーション能力の向上を図る。 主催者：登別市特別支援教育振興協議会 参　加：展示作品合計１４５点　（小学校70点　中学校75点） **○中学校定期演奏会・・・・・・・・・・緑中10/21　登中10/28　幌中11/4** 内　容：緑陽中学校　出演生徒２７名　保護者・引率等１００名 幌別中学校　出演生徒２３名　保護者・引率等４２０名 登別中学校　出演生徒　９名　保護者・引率等１００名 評　価：各学校にお願いして、演奏会の時期を集中していただいた。ふれあいWeekのポスター、案内紙等で紹介することができた。
評　　価	これまでのふれあいＤＡＹ（学校一斉公開）を拡大し、ふれあいウィークとして実施し、講演会、作品展、演奏会など登別の教育を考えるウィークとして取り組むことができた。
今後の方向性	学校一斉公開への地域参加者の数は増加しており、学校の活動を理解してもらうよい機会として、日程、公開内容などの充実を図っていく。また、教育広報においては、教育委員会が進める学校教育、社会教育の状況について、市民にわかりやすく理解してもらう内容となるよう推進する。

項　　目	**10　豊かな心の育成**
点検内容	子どもの発達段階に応じ、学校の教育活動全体を通して行う道徳教育や人権教育を推進し、基本的な倫理観や規範意識、生命を大切にする心、他人を思いやる心を育成する取り組みを支援する。
取組状況	人権教室の実施状況

学校名	開催日	演　　題	参加児童	講　師
幌東小	12/17	花や生き物を大切にする心	全校 104 名	登別市人権擁護委員延べ６名
青葉小	9/19	ありったけの勇気(いじめ撲滅)	５年 57 名	
若草小	12/15	ありったけの勇気(いじめ撲滅)	４年 68 名	
富岸小	12/4	ありったけの勇気(いじめ撲滅)	４年 89 名	

評　　価	地域の人権擁護委員の活動の一環として、市内の小学校を訪れ，人権に関するビデオ視聴や語りかけにより、相手を思いやる優しい気持ちを育てる教室を開催することができた。

今後の方向性	いじめ問題、児童への虐待など、人権に対する関心は益々高まっている昨今であるので、次年度以降も継続的に人権教室・人権の花運動などを実施する。

項　　目	**11　不登校･いじめ問題**
点検内容	「不登校・いじめ等対策会議」を通して、事例研究や教育講演会を実施するとともに、道教委が主催する「どさんこ子ども地区会議」に児童生徒の代表を派遣し、いじめ根絶のための活動を推進する。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、心の教室相談員を配置し、相談体制の充実を図るとともに、適応指導教室と連携した学習や体験活動の取り組みを強化する。
取組状況	**○第１回教職員研修会（講演）**6/26　参加者１３０名 講師：登別市ＳＳＷ　西陰貞子氏　演題：子ども・家庭・地域 **○第２回教職員研修会（研修）**　1/21　参加者：１４７名 助言者：札幌学院大学　横山登志子氏 研修テーマ：不登校の事例を用いた研修 **○適応指導教室（スタディ広場）**２名入級　　体験教室(陶芸教室)４名入級 **○不登校児童生徒数**：小学校７名　中学校２６名　計３３名 **○いじめ認知件数**：小学校１９件　中学校５０件　　計６９件 **○どさんこ☆子ども地区会議**　10/27　伊達高等学校 参加者：登別小学校児童：２名　登別中学校生徒：２名
評　　価	いじめ問題が全国的に問題となる中、校長会と連携して、「いじめ撲滅宣言」や「いじめ撲滅緊急メッセージ」を発し、いじめに対する認識を深める取り組みを進めることができた。また、不登校対策として、新たに取り組んだ体験教室には、これまで全く学校に通えなかった児童が興味を持って参加するなど一定の成果をあげることができた。
今後の方向性	いじめの早期発見、早期対応などを掲載した「コミュニケーションハンドブック」の改訂版が完成したので、学校での活用や地域の関係者への配布などを推進するなど、常に適切な対応ができる体制づくりに努める。

項　　目	**12　健康･体力**
点検内容	学校での体力向上の取組を支援するとともに、今年度から、市内中学校で必修となる、柔道の安全で円滑な実施を図るため、指導者研修や指導内容の充実に努める。また、学校や家庭と連携し、「早寝、早起き、朝ごはん運動」の啓発に努め、子どもたちの生活習慣の改善に取り組む。
取組状況	10/31　幌別中学校　体育：柔道の授業　市議会総務・教育委員視察 8/17　武道講習会(明日中等教育学校)１０名参加

11/11 ～ 11/16　柔道授業支援拠点校公開授業(苫小牧工業高校)１０名参加

〇各学校での柔道の実施状況

学校名	学級実施	のべ時間	実施学年	有段者	外部講師
幌別中	８時間	５６時間	１～３年	２名	有段者教諭が対応
登別中	６時間	１２時間	１・２年	１名	柔道連盟講師 12 時
鷲別中	９時間	７２時間	１～３年	１名	柔道連盟講師 16 時
西陵中	６時間	３６時間	１・２年	１名	有段者教諭が対応
緑陽中	９時間	７２時間	１・２年	３名	有段者教諭が対応

〇生活リズムチェックシートの配布・活用

（家庭学習編・読書習慣編・運動習慣編・生活全体編）

評　　価	中学校の柔道の授業は、柔道連盟の協力により複数体制で安全に実施することができた。また、実施にあたりすべての指導者が講習会に参加できるように働きかけた。
今後の方向性	学校からの要望が多い柔道の授業で使用する安全マットの枚数を６０枚から８１枚に増加し、より安全に取り組めるようにする。また、子どもの健康づくりをめざし、「早寝、早起き、朝ごはん」運動の家庭への啓発を進める。

項　　目	**13　食育**
点検内容	食に対する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるため、栄養教諭を中核とした指導の充実に努めるとともに、学校給食における衛生管理の徹底や地場産品の活用を推進する。

取組状況

〇平成２４年度「食育」のための栄養教諭派遣状況(勤務校:幌小・東小以外)

学 校 名	月 日	曜	学年	時間	教科・内容等	月日	曜	学年	時間	教科・内容等
幌西小学校	9月5日	水	4	9:15～	特別活動					
若草小学校	11月1日	木	2	３・４	学級活動	11月1日	木	5	５・６	総合的な学習
登別小学校	11月21日	水	2	1	給食について	12月7日	金	5	1	栄養素のはたらき
青葉小学校	9月12日	水	2	3･4校時	学級活動	11月27日	火	4	3･4校時	学級活動
鷲別小学校	5月28日	月	1	給食時間	保護者講話会	10月30日	火	3	４校時	総合的な学習
富岸小学校	11月13日	火	6	２～４	学級活動	11月7日	水	2	２～４	学級活動

〇勤務校での指導状況

幌別小学校	12/13	１年	給食を楽しく食べよう	6/16	４年	朝ご飯のよさ・働きを見直そう
	11/27	２年	何でも食べよう　元気に大きくなろう	1/24	５年	バランスを考えた食事をしよう
	12/14	３年	好ききらいをしないで食べよう	2/28	６年	食の安全について食物添加物

幌別東小学校	6/26・7/12・9/26 12/21・2/26・3/8	全校児童	○おやつについて考えよう　○お箸を上手に使おう ○食べ物パワーをたくさんもらおう

〇登別市学校給食展　　1/22 ～ 1/25　市民会館大会議室

登別牛の試食会・・・・・・・・・地場産品である登別牛を使った「すき焼き」

○給食に関する絵画・標語の作品展示会・・・・・幌別西小学校・西陵中学校

評　　価	安全な業務に努めることにより、一年間を通して、児童・生徒が安心して食べられる給食を提供することができた。また、計画的な学校訪問を通して、食に関する指導の充実や、地場産物を活用した給食の提供など、食に関する関心や、興味を持てる事業を推進することができた。
今後の方向性	児童生徒の食育を推進していく上で、学校給食は重要な役割を担っており、引き続きその内容の充実に努める必要がある。

項　　目	**14　学校図書館**
点検内容	図書の充実と読書環境の整備に努めるとともに、昨年度導入を図った図書管理システムの有効活用を促す。
取組状況	・専用サーバを導入し登別市・室蘭市が学校図書システムを共同開発、旧システムは廃止し、新システムの管理は、室蘭市が実施。 **○登別市内小中学校図書館蔵書冊数の状況** 学　校　種 / 蔵書冊数 / 標準冊数 / 充足率 小学校(８校) / ６４,０７８冊 / 66,920 冊 / ９５.６% 中学校(５校) / ４２,０４４冊 / 45,920 冊 / ９１.６% ※標準冊数とは、文部科学省が学校図書館に整備すべき蔵書の標準として学校の規模に応じて定めているものです。
評　　価	・当該システムを共同利用することにより、運用費の縮減、セキュリティの強化、運用の効率化・安定化を図ることができた。
今後の方向性	バーコードリーダーの導入により図書の貸借管理機能が追加され、児童生徒が自分たちで図書の貸出業務を行うことができるようになったことから、学校での貸出冊数の正確な把握に努める。

項　　目	**15　第四次社会教育中期計画**
点検内容	自らの課題を自ら解決する地域社会の形成をめざして、「第四次社会教育中期計画」に掲げる、学習活動や世代間交流、ボランティア活動などの事業展開を図る。
取組状況	**○学習活動** 登別ときめき大学：「津波から逃げる」「エゾシカは森のめぐみ」「南極大陸を歩いて見えてきた地球のこと」「私たちの生活で発生するゴミについて」「地場産へのこだわり」「人を引きつける話し方とラジオ放送について」など 市民マイプラン講座：調理実習、木のおもちゃ作り講座、新聞学習会 **○研修活動** 三市合同女性国内派遣研修（室蘭・伊達・登別　各３名参加） 8/23 ～ 26　テーマ：男女共同参画のための研究と実践交流のフォーラム 会　場：独立行政法人国立女性教育会館（埼玉県嵐山町） **○世代間交流** 6/29　幌別東小学校　　１・２年生との交流　地域老人クラブ１５名参加

	9/11　登別小学校　　４年生との交流　地域ボランティア７名参加 9/12　若草小学校　　２年生との交流　地域ボランティア１２名参加 9/13　鷲別小学校　　４年生との交流　地域ボランティア　８名参加 11/20 富岸小学校　　１年生との交流　地域ボランティア１７名参加 11/21 幌別西小学校　２年生との交流　地域ボランティア１５名参加
評　価 **今後の方向性**	社会の変化に対応していくための知識や知恵、また、生活の質の向上や心の豊かさを求める人々のニーズに応える種々の学習情報や学習機会の提供に努め、市民の学習活動を支援することができた。 市民の生きがいを創出し、望ましい人づくりや地域づくりに寄与する取り組みを推進する。

項　目	**16　家庭教育**
点検内容	家庭教育や子育て支援に関わる機関・団体と連携を図り、学習機会の充実に努めるとともに、広報紙を活用し、必要な情報の提供を行うなど、家庭教育を支える環境づくりを進める。

取組状況

〇家庭教育学級の実施内容

ﾘﾘｰ幼稚園	7/4 バターとアイスクリームの手作り体験　講師：のぼりべつ酪農館 8/9 ピアノ・エレクトーン演奏会　講師：ヤマハ音楽教室 10/4 プリザーブドライフラワーアレンジメント　講師：横尾教光氏(花善)
聖心幼稚園	7/４小児の救急法及び心肺蘇生　講師：登別消防 9/14 緑風園への訪問　園児の発表・高齢者との交流 10/31 旬の野菜を使った料理教室　12/13 指編み講習会　2/19 エアロビクス体操
白菊幼稚園	6/6 料理の講話と実習　講師：登別市健康推進G栄養士・食生活改善推進委員会 6/25 ヨガ教室　講師：廣瀬淑子氏　8/22 アウトドア　講師：木村園長 10/23 バターづくり　講師：酪農館の皆さん
白雪幼稚園	7/12 ふれあい祭　10/31 ハロウィンパーティー　12/11 お餅つき
登別小学校	9/6 施設見学(千歳岩塚製菓工場) 10/9 本場中国の餃子を教えてもらいつくろう　講師：登別市役所政策推進 G 林善花氏 10/24 パーチメントクラフト　講師：佐藤美和子氏　伊藤亨子氏（和歌） 11/8 栄養についての講話と調理実習　講師：登別市健康推進G 2/27 スポンジテニスとフロアカーリング　講師：登別市スポーツ推進委員　鎌田・永井氏
幌東小学校	9/11 栄養教諭による講話・給食試食会　講師：幌別東小学校栄養教諭　小笠原睦美氏 10/27 スポンジテニスとフロアカーリング 講師：登別市スポーツ推進委員 鎌田･飛騨･永井氏 1/26 そば打ち体験　講師：地域食堂「ゆめみーる」職員の方々
幌別小学校	5/29 雑巾ぬい・給食試食会　講師：半田ゆかり氏 7/10 消しゴムはんこ制作　講師：半田ゆかり氏 9/1410/19　陶芸作品作り　講師：津村千鶴子氏（健千窯） 12/11 ホットケーキミックスの簡単おやつ作り　講師：半田ゆかり
幌西小学校	7/19 フロアカーリング　飛騨祐司・永井八重子氏(登別市スポーツ推進委員)

	10/17 装飾教室「デコレーション教室」　講師：冨川澄子氏(リボン工房すみれ) 12/4 クリスマス料理教室　講師：磯野みゆき･清水まさみ氏(カントリーフラワー)
青葉小学校	6/28 へるしークッキング教室　藤野小誉子氏（市役所健康推進G） 9/19 施設見学バス研修「洞爺湖エゾップランド柴田屋」 11/22 あて布作り・給食試食会
富岸小学校	7/17 陶芸制作　講師：白老はしもと陶芸館の方々 9/13 フロアカーリングと給食試食会　登別市スポーツ推進委員 鎌田・飛騨・永井氏 11/7 施設見学（千歳方面）　2/22 茶話会と子育て交流会
若草小学校	8/27 施設見学（千歳ハーパー化粧品工場） 10/29 ヨガでリフレッシュ　講師：川西三奈氏 12/6 ハーブ料理教室講習会　講師：磯野みゆき・清水まさみ氏
鷲別小学校	6/27 料理教室　講師：大谷京子氏（料理塾「おおたに」主宰） 9/11･10/16 陶芸教室　講師：津村千鶴子氏（健千窯） 12/4 クリスマスリース作り　講師：新田知子氏（「青葉」所属）

〇家庭教育学級作品展　11/12 ～ 11/15　市民会館　８１点

〇家庭教育学級講演会　8/28

テーマ：「子どもの運動と成長について」　講師：小河繁彦東洋大学教授　７０名参加

評　　価 家庭教育学級運営委員アンケートから	・(軽スポーツ)ふだんやる機会の少ないスポーツができたことでみんな楽しむことができました。 ・(社会見学)日常では見ることのできない食品の製造工程を見学することができてよかった。 ・(料理教室) メニューがたくさんあり、美味しく、楽しく活動できました。 ・(工芸教室)参加者の皆さんの素敵な作品ができあがり喜んでいました。
今後の方向性 家庭教育学級運営委員アンケートから	・小さなお子さんがいて参加したくてもできない保護者の方にも気軽に参加できる講座があるといいと思います。 ・親子で楽しくできるような企画を行ったほうがいい。親と子のきずなをもっと深めることができると思います。 ・最近は共働き家庭も多く、なかなか人を集めることが難しくなっていますので、アンケートを取って考え直す時期なのかなと思いました。

項　　目	**17　学校･家庭･地域の連携･協働による教育**
点検内容	地域全体で学校を支援する学校支援地域本部事業については、学校支援ボランティアの確保と支援活動の創出などの取組を支援する。 地域の方々の参画のもと、放課後の子どもたちの活動拠点として学習やスポーツ、文化活動などを提供する「放課後子ども教室」については、より一層、活動の充実に努める。通学合宿については、引き続き、道教委による「学生ボランティア派遣制度」の活用や地域の協力団体との連携・協働により、子どもたちの自主性や協調性を育む機会として充実を図る。

取組状況

○学校支援地域本部事業の地区毎の主な活動

幌別中学校区	ふれあい農園（田植え、稲刈り、収穫祭）、乗馬体験、音楽を楽しむ会、スキー学習協力
西陵中学校区	土曜寺子屋（15 回）、親子ふれあいスポーツ大会、世代間交流（小学生とお年寄り）
鷲別中学校区	ふれあい農園、鷲別獅子舞応援、世代間交流、スキー学習協力、 図書ボランティア
緑陽中学校区	さけの稚魚放流、学習サポート、茶道教室、親子もちつき会、スキー学習協力
登別中学校区	ふれあい農園、花壇の苗植え、世代間交流、親子陶芸教室、スキー学習協力

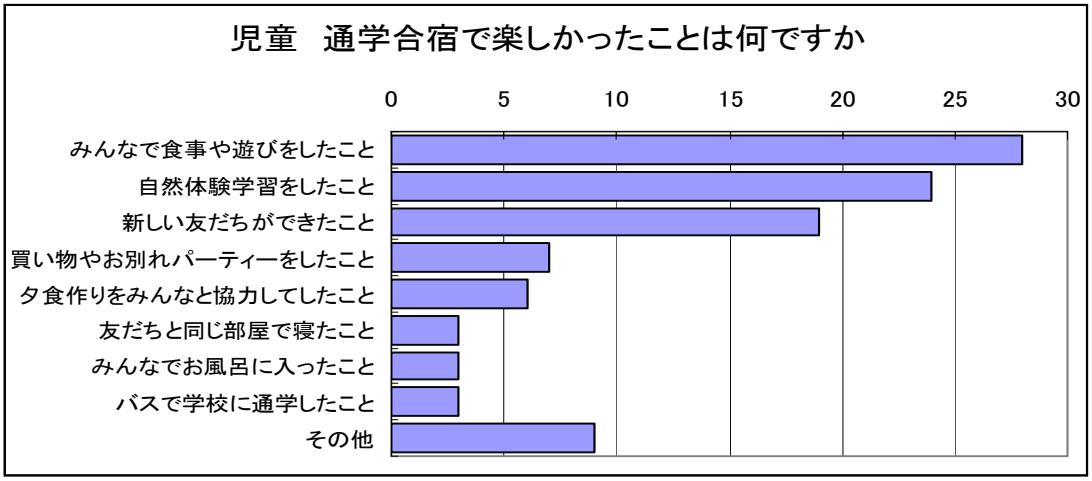
○のぼりべつ・子ども村通学合宿事業

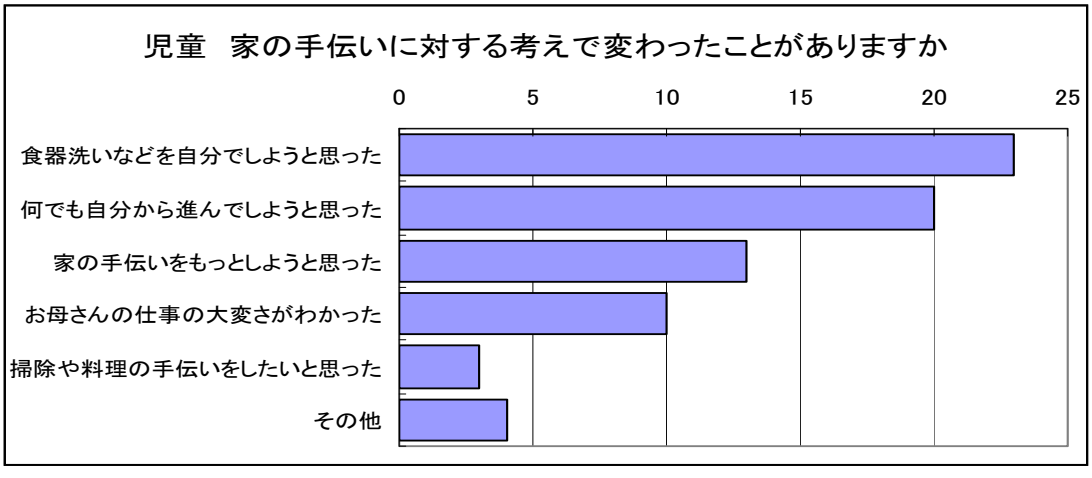
１回目 6/19 ～ 23　２回目 9/25 ～ 9/29　３回目 11/6 ～ 11/10）　４回目（暴風雪のため中止）

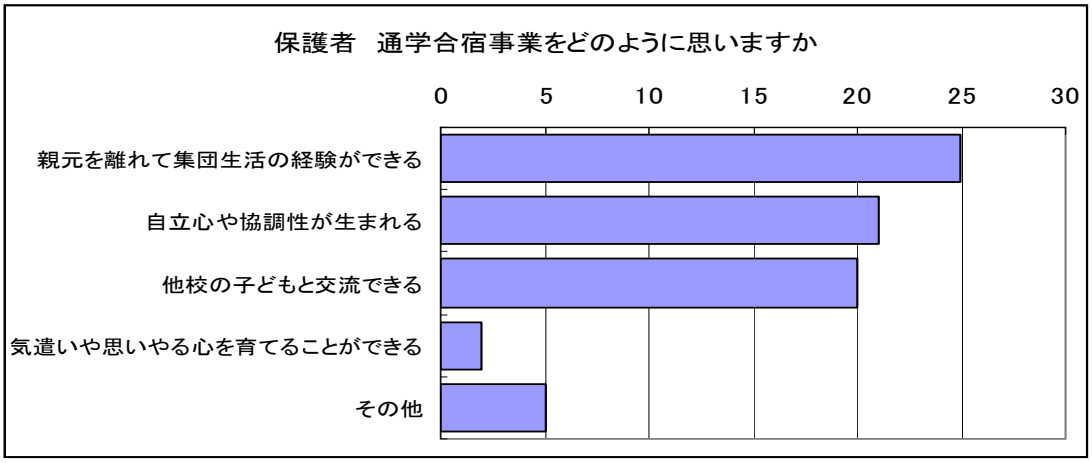
幌別小	幌西小	幌東小	登別小	鷲別小	若草小	青葉小	富岸小	合　計
１８	３７	４	１４	４	６	６	１７	１０６

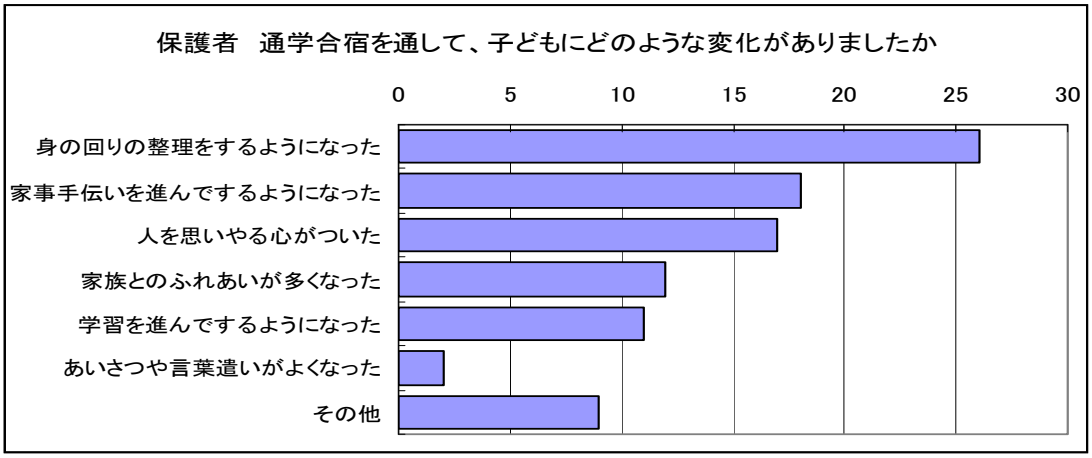
地域ボランティア：日赤片倉分団、更正保護女性会、地域ツインズクラブ、個人 20 ～ 25 名

学生ボランティア：札幌国際大学・室蘭工業大学・北海学園大学　６名









○放課後子ども教室の状況

名　称　等	登録者	開催日数	日平均	主な事業内容
ひなわしメート(鷲別小区)	１０５名	１００日	５０人	たこあげ、もちつき、豆まき、お茶会など
はまなすメート(幌東小区)	５３名	９５日	２６人	百人一首、流しそうめん、お茶会など

評　　価	学校支援地域本部事業では、学校の要請に応じて、スキー学習の協力者の発掘など、人的な支援を行うことができた。通学合宿では、各種団体の協力により子どもたちが満足度の高い取り組みを実施することができた。
今後の方向性	地域の教育力を向上させ、自立の遅れや体験不足、社会性の欠如や倫理観の定着不足などの問題が指摘される子どもたちに対して、体験活動や社会参加活動の機会の充実を図る取組を推進する。

項　　目	**18　青少年の健全育成**
点検内容	各地区の青少年健全育成組織や子ども会育成連絡協議会など社会教育関係団体との連携を深め、自然体験や社会体験などの機会を充実する。また、進展す

	るネット環境に、適切に対応できるよう情報通信技術（ＩＣＴ）を活用して、子どもたちの情報活用能力を育成し、情報モラルの向上を図る取組を推進する。
取組状況	**○こいのぼりマラソン大会**　5/5　川上公園 **○体験学習**　ぱんつくり **○胆子連リーダー交流会** **○第３０回かるた大会** **○成人祭**　1/13　市民会館　出席者 355 名
評　　価	子どもの健全育成をめざした様々な体験活動を関係機関と連携して取り組むことができた。 成人祭は、市内に勤務する青年や専門学校生、高校生で組織する実行委員会が中心となり、市長・市議会議長の挨拶、二十の誓いなどの式典、中学校担任のビデオ放映・集合写真撮影などのアトラクションも充実した内容で実施することができた。
今後の方向性	体験型の学習や活動を広げていくこととあわせて、学校・家庭・地域、さらには各種団体や企業などとも連携し、地域全体で子どもを育てる取組を進める。

項　　目	**19　文化・芸術の振興**
点検内容	登別市文化・スポーツ振興財団や登別市文化協会等と連携し、市民の文化・芸術活動への参加と鑑賞機会の充実を図り、地域文化の振興とコミュニティの構築に努める。また、当市の歴史解明や文化資源としての基礎を構築するため道立文書館の協力を得て古文書講座を開催する。
取組状況	**○森山良子アコースティックコンサート2012**　10/18　登別市民会館 **○三市合同文化事業** 劇団四季ミュージカル公演「赤毛のアン」　室蘭文化センター **○文化事業**　初心者英会話教室・筆ペン習字教室・ビーズアクセサリー教室等 **○古文書教室**　8/25 文書館職員による古文書解読の基礎講座と登別市学芸員による明治初期に宮城県白石から登別へ移住した片倉家の主従にまつわる文書を歴史的な背景とともに解説・紹介する。 **○アイヌ文化講座**　7/26　講座：歴史・文化伝承・民俗芸能・古式舞踊 **○市民が記憶する歴史収集事業**：登別市の過去を経験・記憶している方を情報提供者として，聞き取り調査を行い、その内容を明文化する。（聞き取り調査・記録音声の文字化、資料のデータベース化等）
評　　価	古文書教室は、まちの歴史を明らかにする楽しさに触れることができた。歴史収集では、登別市の過去を記憶している方から貴重な話を取材することができた。
今後の方向性	アンケート等で市民ニーズをとらえ、事業を検討し、質の高い文化活動を提供できるように推進する。市民が記憶する歴史収集事業は、これまで収集した資料をもとに成果展を実施する。

項　　目	20　スポーツの振興
点検内容	登別市スポーツ推進委員会や登別市体育協会と連携し、各種スポーツ教室の充実とレクリエーション活動の推進に努めるとともに、総合型地域スポーツクラブ「おにスポ」を支援し、生涯スポーツの普及を図る。また、健康と体力づくりを目的とした「きらり健康ふれあいウォーキング」を登別地区で実施する。
取組状況	**○胆振管内軽スポーツフェスタ 7/22**　パークゴルフ、バドミントン・フロアカーリングへの参加・支援 **○市民ラジオ体操会**　7/28　登小グラウンド94名　青小グラウンド82名 **○市民スポーツ・健康フェスティバル 9/30** 岡志別の森運動公園・市民プール パークゴルフ大会・子ども駅伝競技大会、個人タイム計測、水中玉入れ競争 **○スポーツ教室の実施**　ジュニアテニス教室・スポンジテニス大会 **○「おにスポ」学校体育授業への協力**　若草小へ支援指導員の派遣　週１回 **○きらり健康ふれあいウォーキング**（ノルディックウォーキング）　**６回開催** 7/1 ～ 9/7　カントレラ周辺、登別海岸通り、丸山通り、登別漁港など ○軽スポーツ指導者派遣事業　派遣回数５回　参加者６８名 家庭教育学級・ＰＴＡ研修会等に派遣
評　価	登別市スポーツ推進委員（旧体育指導員）が、市内のスポーツ振興を図るため、スポーツ事業に積極的に関与し、生活に直結したスポーツの普及に取り組むことができた。
今後の方向性	今後も継続的に、登別市スポーツ推進委員の各種事業への派遣を行い、スポーツの振興を図っていく。

項　　目	21　図書館
点検内容	西胆振三市間での相互利用サービスの実施と図書の充実を図り、魅力ある図書館づくりを進める。また、図書館のバリアフリー化の一環として、地域情報センターＰＩＰ配本所の利活用を図ることとし、その施設整備のあり方について、図書館協議会に諮問する。
取組状況	

○主なイベント等の事業

5/12　絵本作家講演会・原画展　講師：あべ弘士氏『地球はどうぶつでいっぱい』

6/1 ～ 14　特別展『知里幸恵のふるさと紀行－登別のアイヌ語地名を撮る－』

7/7　「本とあそぼう全国訪問おはなし隊」キャラバンカー来館（主催「おはなしぽけっと」）

8/11 「真夏の１６ミリ映画祭」

8/18　ライブラリーツアー　北海道立図書館視察

9/1 ～ 27　子ども読書活動推進事業「年長児の読書感想画展」　対象：市内幼保　応募２８８作品

9/28　登別カルチャーナイト『アコースティックの夕べ』(演奏：シオン)

11/10　第８回図書館まつり　おはなし会や朗読劇、お茶会、一箱古本市、手話、囲碁・将棋教室など　参加：600名

11/13 ～ 29　特別展『吉村明と北海道－歴史を旅する作家のまなざし－』協力：北海道立文学館

12/8　小・中学生の読書感想文・読書感想画コンクール入賞者表彰式

読書感想文応募：小学校 283.名・中学校 96 名の応募　入選：小学校 42 名・中学校 20 名

読書感想画応募：小学校 59 名　入選 10 名　文集『本は友だち』第 38 号発行

2/9　読み聞かせ研修会：『読み聞かせで伝えたい本の楽しさを』

福田洋子氏（児童書専門店 旭川市「こども冨貴堂」店長、北海道新聞児童書書評執筆者）

2/19 ～ 28　特別展『たたら製鉄の世界』（主催「室蘭登別たたらの会」）

3/16　文化講演会『北海道で小説を書く理由』講師：時代小説家　宇江佐真理氏

○登別市立図書館開館４０周年記念事業

10/4 ～ 21　『札幌オリンピック 40 周年記念展』（共催：北海道立図書館北方資料室）

10/21 ～ 11/10　『40 年のベストセラーと図書館員のおすすめ本』

11/3　『ふるさと登別・博学グランプリ』

○新規事業

・「図書館ツアーと利用者ガイダンス」（毎月最終土曜日）情報リテラシー支援サービス

・「キッズ・ヨガ」（毎月第１土曜日）

国立国会図書館レファレンス共同データベースへの参加、

評　　価	読書に関するイベントを通じ図書館の認知度が高まり、市民からの事業企画が持ち込まれるようになり双方性が生まれるようになった。 図書館開館４０周年にあたり、費用をかけず複数の記念事業を実施できた。 読み聞かせ研修会は幼稚園教諭・保育士にも告知し初めて数名の参加をみた。 高齢者などのIT弱者を対象に検索用コンピュータの使用法などを説明する「図書館ツアーと利用者ガイダンス」を始めた。アンケートでも好評である。 昨年度に続き辞典・年鑑・要覧等の参考資料の更新を行った。
今後の方向性	西胆振３市の広域利用サービスを一層充実するには物流が課題となっている。２４年度は週１回職員が搬送しているが、今後あらためて３市間で協議することになっている。

３ 重点施策の評定結果

	項　　目	点　検　内　容	評定
1	**危機管理・防災教育**	学校の危機管理マニュアルや防災体制の見直しと、自然災害を想定した「避難訓練を徹底すること」や児童生徒が自らの命を守りぬくため「主体的に行動する態度」を育成するなど、防災教育の一層の充実を促す。	A
2	**学校耐震化**	富岸小学校及び登別小学校の「耐震診断」、鷲別小学校改築の「基本設計」、幌別小学校及び西陵中学校体育館の「耐震補強工事」に取り組む。	A
3	**学力向上対策**	全国学力学習状況調査の結果を踏まえ、各学校が策定する学力向上改善プランの検証・改善サイクルが機能するよう各種資料の提供などを通して、学校の取り組みを支援する。また、引き続き、少人数指導、習熟度別指導などのきめ細かな学習指導に取り組むほか、放課後や長期休業中の補充学習を促す。	B

4	教職員の指導力向上	教育実践研究奨励校を指定し、先進的な授業研究や研修活動を支援するとともに、その実践成果を活用するなど学校における職場内研修（ＯＪＴ）機能を強化する。また、道教委が計画する経験年数や職務内容に応じた研修会への積極的な参加を促すほか、引き続き、若手教員の指導力向上をめざした「巡回指導教員」の活用を図る。	A
5	特別支援教育	各学校のコーディネーターや教員の資質、指導力の向上を図るとともに、介助員や支援補助員の適切な配置に努める。	A
6	特色ある教育活動	北国らしいスポーツの体験と体力向上をめざしたスキー・スケート学習については、本年度より、全小学校で実施（青葉小学校はスケート学習）するので、安全で有意義な学習となるよう支援する。	A
7	英語（国際理解）教育	小・中学校９年間を見通した英語学習を実施するため、関係者の協力をいただき「登別市英語教育推進プログラム」を作成する。	B
8	幼・保・小・中連携教育	子どもたちが、新しい環境に馴染めずに生じる様々な問題に対応するため、指導の連続性や望ましい学校間のあり方について検討するなど、円滑な接続が図られるよう努める。	A
9	地域に信頼される学校	「教育ふれあいウィーク」では、学校の一斉公開や特別支援教育に関する懇談会などに取り組みその充実を図るとともに、「教育広報」を発行し、教育活動の積極的な情報発信に努める。	A
10	豊かな心の育成	子どもの発達段階に応じ、学校の教育活動全体を通して行う道徳教育や人権教育を推進し、基本的な倫理観や規範意識、生命を大切にする心、他人を思いやる心を育成する取り組みを支援する。	B
11	不登校・いじめ問題	「不登校・いじめ等対策会議」を通して、事例研究や教育講演会を実施するとともに、道教委が主催する「どさんこ子ども地区会議」に児童生徒の代表を派遣し、いじめ根絶のための活動を推進する。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、心の教室相談員を配置し、相談体制の充実を図るとともに、適応指導教室と連携した学習や体験活動の取り組みを強化する	B
12	健康・体力	学校での体力向上の取組を支援するとともに、今年度から、市内中学校で必修となる、柔道の安全で円滑な実施を図るため、指導者研修や指導内容の充実に努める。また、学校や家庭と連携し、「早寝、早起き、朝ごはん運動」の啓発に努め、子どもたちの生活習慣の改善に取り組む。	A
13	食育	食に対する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるため、栄養教諭を中核とした指導の充実に努めるとともに、学校給食における衛生管理の徹底や地場産品の活用を推進する。	A
14	学校図書館	図書の充実と読書環境の整備に努めるとともに、昨年度導入を図った図書管理システムの有効活用を促す。	B

15	第四次社会教育中期計画	自らの課題を自ら解決する地域社会の形成をめざして、「第四次社会教育中期計画」に掲げる、学習活動や世代間交流、ボランティア活動などの事業展開を図る。	A
16	家庭教育	家庭教育や子育て支援に関わる機関・団体と連携を図り、学習機会の充実に努めるとともに、広報紙を活用し、必要な情報の提供を行うなど、家庭教育を支える環境づくりを進める。	B
17	学校・家庭・地域の連携・協働による教育	地域全体で学校を支援する学校支援地域本部事業については、学校支援ボランティアの確保と支援活動の創出などの取組を支援する。 地域の方々の参画のもと、放課後の子どもたちの活動拠点として学習やスポーツ、文化活動などを提供する「放課後子ども教室」については、より一層、活動の充実に努める。通学合宿については、引き続き、道教委による「学生ボランティア派遣制度」の活用や地域の協力団体との連携・協働により、子どもたちの自主性や協調性を育む機会として充実を図る。	A
18	青少年の健全育成	各地区の青少年健全育成組織や子ども会育成連絡協議会など社会教育関係団体との連携を深め、自然体験や社会体験などの機会を充実する。また、進展するネット環境に、適切に対応できるよう情報通信技術（ＩＣＴ）を活用して、子どもたちの情報活用能力を育成し、情報モラルの向上を図る取組を推進する。	A
19	文化・芸術の振興	登別市文化・スポーツ振興財団や登別市文化協会等と連携し、市民の文化・芸術活動への参加と鑑賞機会の充実を図り、地域文化の振興とコミュニティの構築に努める。また、当市の歴史解明や文化資源としての基礎を構築するため道立文書館の協力を得て古文書講座を開催する。	A
20	スポーツの振興	登別市スポーツ推進委員会や登別市体育協会と連携し、各種スポーツ教室の充実とレクリエーション活動の推進に努めるとともに、総合型地域スポーツクラブ「おにスポ」を支援し、生涯スポーツの普及を図る。また、健康と体力づくりを目的とした「きらり健康ふれあいウォーキング」を登別地区で実施する。	A
21	図書館	西胆振三市間での相互利用サービスの実施と図書の充実を図り、魅力ある図書館づくりを進める。また、図書館のバリアフリー化の一環として、地域情報センターＰＩＰ配本所の利活用を図ることとし、その施設整備のあり方について、図書館協議会に諮問する。	A

Ⅳ 点検･評価に関する学識経験者の意見等

平成２４年度教育委員会点検・評価報告に関する意見等

石井　憲一

平成 21 年度から始められた教育行政を掌る市教育委員会の点検・評価が平成 24 年度においても継続されました。私は客観的な意見を求められた一人として、本報告にある重点施策の点検・評価に対しいくつかの所見を申し述べますが、全体としては概ね妥当であると判断させて頂きます。以下に対象となった教育委員会会議（臨時会を含む）と教育委員の活動、そして教育長の教育行政執行方針に基づく重点施策の点検・評価について意見を述べます。

最初に、報告書を注意深く読みましたが年間 13 回に及ぶ教育委員会会議において、何がどのように議論されたのかが明白でないと感じたところです。23 年度にも指摘させて頂きホームページ等による対応を検討されるとの事でしたが、つまびらかになって居ないと考えます。昨今は特に、不登校・いじめへの対応や教員が行う体罰に対する処方箋が求められています。市当局の報告では現状として比較的穏やかな当市にあっても、将来起こりうる芽は存在している訳で、会議において深く審議されその対応を教育現場に提案して頂きたいと考えます。また、学力向上対策や教員の資質向上に係る研修についても然るべき議論がなされ、それが教育現場に反映されるような結果として提案されることを望みたい。なお、市内各校の諸行事への対応については特に問題はないと考えます。

次に、教育行政執行方針に掲げた重点施策の点検・評価に関しては、教育の本質である確かな学力の向上、いじめ・不登校等への取組み、体力・運動能力の向上、そして家庭や地域の教育力の向上といった事柄への対応に一部課題が残っており、時系列的に見ても上向いていないところに不満が残ります。執行方針に掲げられた「学力向上対策」、「不登校・いじめ問題」、そして「豊かな心の育成」の施策が重要であると考えておりますが、いずれも道半ばという感は否めません。特に、学力向上対策が前年まで良好な状態で推移していた状況から変化したことは、問題の所存が根深いものと考える次第です。この点は「教職員の指導力向上」と両輪の施策であるところから執行方針の中で示された OJT（職場内研修）の充実や TT（チームティーチング）の導入について触れられていて期待されるところでしたが、十分な力に成っていないと考えます。OFF-JT（人材育成機関への通所研修）や教員の自己啓発などと有機的な連携を高め、成果が出ることを望みます。

3.11 東日本大震災の後、喫緊の課題である「危機管理・防災教育」は速やかに進んでいるとの判断で実際様々な取組みが見られ評価できます。しかし、「学校耐震化」は予算措置との関係で低水準とも聞き及んでいます。施設の耐震化整備が火急速やかに進捗することを望みます。

今回は、意見を求められた６月以降になって、文部科学省の諮問により中教審が地方教育委員会制度の改革の審議を開始し、それに対して各界から多様な意見が出ています。また、いじめ・不登校と自死のこと、部活動における指導者の体罰等様々な議論あり、新しい教育行政が求められていると考えます。何はともあれ肝要なことは、教育行政の

組織がより合理的に機能して次代を担う青少年の教育に真摯な対応がなされる事です。今回はその視点に立ち、重点施策については主たる施策のみについての点検・評価に関して意見を述べさせて頂きました。

以 上

平成２４年度　教育委員会点検・評価報告に関する意見等

浅 野　　清

はじめに

教育現場から去って随分歳月が流れ去ったが、テレビや新聞や町の噂などから時々、学校教育の実態や児童生徒の実態が気になり、街の中の子供達の様子を観察することがある。

登別市における教育理念や教育実践の現状や課題がどれだけＰＴＡ会員や市民一般に理解され、どれだけ支持され、共感を以て支援されているのであろうか。学校教育の実践に溶け込んで行けず、それを拒否したり、反発をしたり、孤立感に悩んでいる児童生徒はどの程度存在し、それに対して現場ではどのように対応し、教育委員会ではどのような指導・対策を練っているのであろうか。一方、問題行動をする教師や心に病気を持った教師の存在がマスコミの話題になっている。登別市での実態はどうなっているのであろうか。そしてそれに対する取り組みの状況はどうであろうか。相変わらず現場の先生方は会議会議に追われ、子供達との触れ合いの時間より、パソコンの画面をにらめっこしている時間が多いのであろうか。子供達との触れ合いの時間や場をどのように確保されているのであろうか。――時々、こんなことを憂慮することがある。

今年は戦後６８年になる。この歳月の日本の教育は大きな変動があった。教科書の墨塗りから始まった戦後教育は今は週５日制となり、生活主義と教科主義との大きな振幅があり、ゆとりの教育から教科指導の学力主義に大きく流れが変わったが、当市に於いては特に何に重点を置いて取り組んでいるのであろうか。そしてどのような効果が見えているのであろうか。

近年、英語教育を小学校から導入し、国際化に積極的に対応している。そのための教師の研修はどうなっているのであろうか。また、当市での教育現場においてＩＴがどの程度利用されているのであろうか。これからは電子黒板や個々の児童生徒がパソコンを使用して授業や学習するのが主流とならなければならないが、それに対する予算措置はどうなっているのであろうか。

「研修は教師の命である」これは永遠の箴言である。現場の先生方の苦労は大変なことであり、その上、いつモンスターの襲撃があるかも知れない。精神を病む教師が増えているそうだが、その気持ちに同情する。校内暴力を振るう教師や非行教師の存在もマスコミの話題になっている。当市では問題教師の実態はどうなっており、それに対する取り組みはどうなっているのであろうか。

今後、益々教育委員会の見識と責任と指導力の真価が問われる。一市民として日頃の労をねぎらいながら当市の学校教育のレベルアップのため益々のご活躍されることをご期待申し上げる。

Ⅰ　教育委員会の点検・評価について

開かれた教育委員会、ガラス張りの透明な教育行政ということは素晴らしいことである。ぜひ、今後とも市民に全面的に信頼され、期待され、愛される教育委員会であって欲しい。そのためにも謙虚さと自己評価・自己反省は必須条件である。

Ⅲ　評価結果

１　教育委員会の活動状況の概要報告について

教育委員会の年間の活動状況がよく分かり、そのご多忙ぶりを理解できた。ただ、「１、登別市のいじめ対策について」「３、平成２４年度全国学力・学習状況調査の設問別調査結果について」などの重要な情報提供についての委員会としての反応が全く見えない。ただ聴きっぱなしで終えたのであろうか。やはり、重要な案件についてはこの報告書の中で軽くても良いから、議論された内容を紹介した方がよいのではないだろうか。

２　重点施策の評価について

⑴危機管理・防災教育について

東日本大震災での大川小学校の被害は８０人以上の児童や教職員が死亡・行方不明になった。超異常な数字である。学校での日頃の防災教育や当日の指導体制に大きな問題があったようである。本市でもここから多くの教訓を得るべきである。河川や海岸に近い小中学校は特に緊張感が必要である。

⑵学校耐震化について

体育館の耐震化において地域住民の避難所としての機能を重視した視点は東日本大震災の教訓だと思う。共感である。

⑶学力向上対策について

学力向上対策会議が年間３回実施されているが、全市的に取組むことは大きな発展である。私が現役時代はこのような取組の発想はなかった。「ねらい」にも指摘されているように、「学校教育の中心課題は学力向上」であり、「危機意識」が必要である。それがどこまで全教職員に浸透し、各自の創意工夫された授業が各学校で生れて来るか、最後は一人ひとりの教師の熱意と努力である。そのための各校の研修態勢が問われる。長期休業中の学習サポートの実施状況が興味深い。継続と充実・発展を期待する。

＊全国学力調査の状況について

大変興味深い現象は小学校の国語・算数が平成２３年度は全道平均よりもずっと急激に高くなっているのに、平成２４年度は例年並みにぐっと低下していることだ。この現象に対してどんな分析がなされたのであろうか。それにしても当市の小中学校生徒の学力の低いのには驚く。原因は何であろうか。この学習意欲の低さと学力の低さの原因の追究と緊急の対策を講じるべきである。やはり教師や父母や教育行政の「危機意識」が欠如しているのではないだろうか。「教育都市登別」としてのＰＴＡ組織も巻き込んだ高らかな宣言と対策が必要である。

＊６年生と中学３年生の家庭学習の状況について

興味深いグラフであるが、日本の子供は欧米の子供に比較して家庭学習の時間は全く少ないと言われ、しかもその内容も随分異なるようだ。

宿題は教師からの課題であり、家庭学習は児童生徒の自主的な学習であり、更に学習塾からの提出された課題もある。ここでの家庭学習とはどれを意味しているのか。曖昧であるが、多分、全部含まれているのであろう。本来なら明確にして調査するべ

きであろう。

＊読書の状況について

「小中学校とも全く読書をしないと回答した児童生徒は、小・中学校ともに３４％にのぼり、３人に一人は全く本を読んでいないことが明らかになった。」と説明されてい　る。発達途中の児童生徒にとって読書は趣味の問題でない。精神的、知的な発達上、絶対に必要な脳の栄養素である。読書は大人にとっては趣味の範囲であっても児童生徒にとっては絶対に必要な生活習慣でなければならない。このことが教師にとっても父母にとっても自覚されていない。ここに悲劇がある。教師や父母による読み聞かせや全校の「朝読書」や読書の時間の設定や必読書の学年ごとのリストの作成とその図書の準備など多様な実践方法がいろいろと紹介されている。要するに各学校の教師や父母のやる気の問題である。

＊評価について

学力調査から様々な問題点が露呈した。ここから各学校の教師達がどれだけ「危機意識」と指導者としての責任感を抱くかである。これは他人事ではない。指導者としてのプロ意識と責任感を抱き、全校的に全市的に対策を講じ、日々実践しなければならないのである。

＊今後の方向性について

ここに提示されていることは素晴らしい内容である。問題は実践力の発揮である。一朝一夕にはできない。数年計画をたて、毎年実践交流を図りながら、数年後に総括して、再度問題点を洗いだしてはいかがであろうか。

４、教職員の指導力向上について

「研修は教師の命である」という箴言にすべての解決策が包括されている。指導力の向上は個人研修・学校での研修・サークル研究・市教研での研修その他の研修、つまり全ての研修機会を積極的・主体的に有効活用することである。

教育行政としてはこれらの研修機会の支援と指導性の発揮と財政的な援助(予算付け)が要望される。だから、本市で取り組んでいる教育実践研究奨励校選定、職場内研修の活性化、道教委主催の様々な研修会参加への奨励、巡回指導教員の活用などは大変有益である。

ともかく「授業は楽しい」という体験の積み上げが児童生徒の学力向上の重要な要件である。取組状況の添付資料は大変参考になる。なお、ここで提示されている「今後の方向性」はぜひ積極的に推進し、大きな成果をあげることを期待したい。

５、特別支援教育について

この教育の基本は個々の児童生徒の状況があまりにも違いがあり､変化も著しいので､教師側の深い愛情と微妙な変化を敏感に読み取り、対応できる専門的な知識・技術が要求される。それを支援する介助員・支援員の配置が必須条件である。行政側の財政的支援・保証が絶対に必要である。今後益々充実することを期待したい。また、普通学級の児童生徒との日常的な交流活動も当然必要である。父母への啓発活動も同時に進めることも当然なことである。

６、特色ある教育活動について

今回はスキー・スケート学習のみしか紹介されていないが、ぜひこれは継続して実施して欲しい。ただ、特色ある教育活動とは本来はもっと幅が広く、個性的な活動である

べきである。

・体育系（例）◎全校なわとび～級の設定、◎全校一輪車～級の設定　◎その他

・文科系（例）◎全校読書運動～学年ごとの必読図書のリスト作成、学校図書館にその必読図書を複本で揃え、年々さらに充実する。各学校に図書館司書を配置する。

◎全校合唱　◎全校器楽演奏　◎全校の作文や読書感想文の発表会

◎全校文集の作成　◎全校新聞の発行　◎全校壁新聞のコンクール

◎全校漢字テスト（級の設定）　◎その他創意工夫

◎アイヌ文化理解のための教育活動（当市に知里幸恵銀のしずく記念館がある。有効利用するべきである。）

◎海外の小中学校との交流（文通・絵画の交換交流など）（かつて富岸小学校はカナダの小学校と交流があった。私は退職後、その学校を訪問したことがあり、当時新聞にも紹介された。）《呟き！》多分駄目でしょうね。今、現場は忙しいのだ。老人の意見などに耳を傾ける暇はない。嗚呼、忙しい。忙しい。

７、英語（国際理解）教育について

私ごとで恐縮であるが、カナダの姉妹校を訪問する為、私は退職してから、英会話教室に通ったり、ラジオの英語教室を利用して、老体に鞭を打って、英語の学習をした。そしてついにカナダの姉妹校に一人訪問し、温かい歓迎を受けた経験がある。貴重な人生体験であった。

国際化が益々進む世の中であり、今や、すべてグローバルの視点で考察しなければならない時代である。その意味では日本の教育は大変遅れていると思う。もっと外国語教育の実践を重視すべきである。「登別市英語教育推進プログラム」の関係者による真剣な検討と豊かな実践を期待する。

８、幼小中連携教育の推進について

理念としては分かっていても、具体的な実践となると、互いのハードルが高く、なかなか困難である。特に幼稚園・保育所の年長組と小学校１年生の担当者同士の具体的な交流も必要である。残念ながらそのような配慮はないようである。

９、地域に信頼される学校について

「教育ふれあいウィーク」の実施や「教育広報」の発行などの一般市民を対象にした啓蒙活動は素晴らしいことである。子供は地域で育てるという発想の実践だと思うが、ぜひ更に充実・発展させて欲しい。学校教育は地域の支援・協力があって成立する教育機関である。その為には教職員の信頼が絶対に必要である。良識の欠如した教職員による不祥事が起きないように指導が必要である。

10、豊かな心の育成について

学校教育と地域の人権擁護委員との交流は着眼が素晴らしい活動である。今後もぜひ継続して欲しい。問題は子供達の心にどれだけ響き、人格形成にどのような影響を与えたかである。本当に学級でのいじめの撲滅の思想形成に寄与したであろうか。子供達の心理の変化など子供達の心を知りたい。

豊かな心の育成の実践は一過性の指導では駄目であり、教育活動の全分野で６年間にわたり、様々な機会で指導を心掛けなければならないし、担任の人間性の影響が非常に大きい。

11、不登校・いじめ問題について

取組状況をみると、本市では不登校児童生徒数は小学校７名、中学校２６名、計３３名存在している。その原因は何か、それに対して該当校ではどのような取組をしたのであろうか。校内外の研修の場での研修や実践交流が継続的に必要である。

いじめ認知件数は小学校１９件、中学校５０件だそうだが、これは多分氷山の一角であろう。一見、仲良しの仲間同士のふざけ合いに見えるが、本質は陰湿な脅迫、いじめ（心・身体）である深刻な事例が多数ある。幸い本市では、今のところ、いじめによる自殺という事件は発生していないようだ。担任の気配りと緊張感が要求される。学校態勢はどのようになっているのであろうか。教育委員会の各学校に対する現在の継続的な指導を期待する。

12、健康・体力について

「早寝、早起き、朝ごはん運動」の啓発はぜひ本腰を入れて、継続的に推進して頂きたい。これはＰＴＡ活動を通して行うべきであり、親の意識改革を必要とする困難な取組である。

13、食育について

学校給食は食育の面でも人間形成の面でも重要な場面である。現在行っている実践を今後も継続して創意工夫を重ねて行なって欲しい。ただ、最近話題になっている食物アレルギーの児童に対する取組について触れていない。事件が発生する以前に対策が必要である。担任は大変であるが、事前の調査を含め、緊張感が要求される。教育委員会としての対策に対する指導性が求められる。

14、学校図書館について

学校図書館の充実とは蔵書数を増やすことだけではない。全校の児童生徒に利用・活用されることである。学校の中に読書運動を盛り上げることであり、授業の中で図書館を活用する場面（調べ学習）を設定したり、学年ごとの必読図書のリストを作成し、図書室にはそれらの図書を複数揃える。図書室には司書教諭を配置し、環境整備や読書指導を担当するような環境づくりが必要である。もし、財政上、無理である場合は、母親達に呼びかけ、ボランティアを要請してはどうであろうか。それを教育委員会でボランティアの養成を企画することも一つの方策である。

15、第四次社会教育中期計画について

ともかく文化性の高い内容を企画して頂きたい。

16、家庭教育について

父母の啓蒙機会としての「家庭教育学級」の役割は重要であるので、内容を工夫しながら、今後も継続することが重要である。ただ、内容を見ると、趣味的内容が中心であるが、我が子を育てる家庭教育の在り方や問題点についての学習面をもっと重視するべきである。現在の児童生徒の社会環境や意識や実態はどんどん変化している。そのことを父母にも周知するようにし、現状や対策についてがっちり学習するべきではないか。

17、学校・家庭・地域の連携・協働による教育について

ともかく児童生徒を育てるのは学校だけでなく、地域社会の役割が非常に大きい。今後も継続し、創意工夫した積極的取組を期待する。

18、青少年の健全育成について

ともかく児童生徒を育てるのは学校だけでなく、地域社会の役割が非常に大きい。今

後も継続し、創意工夫した積極的取組を期待する。

19、文化・芸術の振興について

大変活発で結構であるが、不思議に思ったことがある。「アイヌ文化講座」の中で、近代アイヌの三傑であり、当市出身の知里幸恵、金成まつ、知里真志保を取り上げないということは意外な片手落ちである。しかも当市には「知里幸恵銀のしずく記念館」という素晴らしい施設が存在する。担当者の認識不足なのであろうか。

20、スポーツの振興について

スポーツ振興は大いに賛成である。どんどん推進して頂きたい。

21、図書館について

私は日頃、図書館に世話になり、執筆活動や研究活動をしている人間である。だから、私の仕事は図書館が存在しないと成立しない仕事である。ただ、私は当市だけの図書館だけでなく、他市や道立図書館も利用させて貰っている。だから、他地域の図書館の実情も多少は分かり、当市の図書館と比較することができる。そのテーマによっては国会図書館も利用している。趣味の一つは他の地域の新しい図書館を見学することである。また、以前は図書館で長年読み聞かせのボランティアをしたり、講座の講師や読書会の講師もしていたこともある。

当市の図書館はすっかり手狭になってしまい、他市の新しい図書館と比較することは気の毒であるので、それは止めることにする。ただ図書館は地域の文化センターであり、知性の象徴である。このことは忘れてはならない。

どうか様々な悪条件の中で奮闘している職員の皆さん、今後も継続して、創意工夫し、市民の声に耳を傾け、図書館活動に奮闘して頂きたい。

以 上

Ⅴ 評価のまとめ

平成２４年度の登別市教育委員会の重点施策として点検・評価で取り上げた２１項目の評定結果は、

Ａ：達成しているもの・・・・・・・・・・・・・・・・・・	１５項目
Ｂ：おおむね達成しているもの・・・・・・・・・・・・・・	６項目
Ｃ：おおむね達成しているものの一部課題があるもの・・・・	０項目
Ｄ：達成に向け困難な課題があるもの・・・・・・・・・・・	０項目

であり、教育行政執行方針に沿って適切な教育行政の執行がなされたと考えております。

今後も、この点検・評価の効果を高めるために、各種基本計画の内容を再確認するとともに、目標に向かってより多くの具体的な改善策が提示されるようにしなければならないと考えております。

また、ＰＤＣＡ（計画・実行・確認・改善）のマネジメントサイクルを生かしたシステムづくりに心がけ、登別市の教育行政の推進に役立ててまいります。

Ⅵ 参 考 資 料

１　平成24年度教育行政執行方針

平成２４年第１回登別市議会定例会にあたり、教育委員会所管の行政執行に関する基本方針を申し上げます。我が国においては、グローバル化や少子高齢化の進展により、社会・経済環境が一層厳しさを増し、先行き不透明な状況になっております。そのような中、教育においては、新しい時代を積極果敢に築き上げていく、気概をもった人材を育成することが求められており、そのためには、次代を担う子どもたち一人ひとりが、しっかりと自立し、生き生きと活躍できる力を身に付けることが、重要であります。教育委員会では、希望と高い志を持ち、未来に向かって心豊かにたくましく生きる人間の育成を目指して、教育行政を着実に推進してまいります。

以下、平成２４年度の重点項目について申し上げます。

はじめに、学校教育についてでありますが、

本市教育の重点目標である「子どもたちの生きる力の育成」と「地域に根ざした魅力ある学校づくり」の実現をめざして、学校・家庭・地域が連携し、それぞれがもつ機能を十分に活かしながら、調和のとれた「心豊かな人間性」をはぐくむ教育を推進してまいります。

また、昨年発生した東日本大震災は、学校の安全対策を進める上で、大きな教訓となりました。教育委員会では、学校に対し、危機管理マニュアルや防災体制の見直しと、自然災害を想定した「避難訓練を徹底すること」や、児童生徒が自らの命を守りぬくため「主体的に行動する態度」を育成するなど、防災教育の一層の充実を促してまいります。

また、学校施設の耐震化については、富岸小学校及び登別小学校の「耐震診断」、鷲別小学校改築の「基本設計」、幌別小学校及び西陵中学校体育館の「耐震補強工事」に取り組んでまいります。

学力向上対策については、全国学力学習状況調査の結果を踏まえ、各学校が策定する学力向上改善プランの検証・改善サイクルが機能するよう各種資料の提供などを通して、学校の取り組みを支援してまいります。また、平成２３年度の学力調査では、当市の小学校の平均正答率が、国語、算数ともに全道平均を上回るなど、これまでの取組が着実に成果となって表れてきておりますので、引き続き、少人数指導、習熟度別指導などのきめ細かな学習指導に取り組むほか、放課後や長期休業中の補充学習の取り組みを促してまいります。

教職員の資質向上については、本年度も、教育実践研究奨励校として六校を指定し、先進的な授業研究や研修活動を支援するとともに、その実践成果を活用するなどして、学校における職場内研修（ＯＪＴ）機能が強化されるよう図ってまいります。また、道教委が計画する経験年数や職務内容に応じた研修会への積極的な参加を促すほか、引き続き、若手教員の指導力向上をめざした「巡回指導教員」の活用を図ってまいります。

特別支援教育については、各学校のコーディネーターや教員の資質、指導力の向上を図るとともに、介助員や支援補助員の適切な配置に努めてまいります。

次に、特色ある教育活動についてでありますが、北国らしいスポーツの体験と体力向上をめざしたスキー・スケート学習については、本年度より、全小学校で実施（青葉小学校はスケート学習）いたしますので、安全で有意義な学習となるよう支援してまいります。

また、英語教育については、これまでの実践を踏まえ、小・中学校九年間を見通した英語学習を実施するため、関係者の協力をいただき「登別市英語教育推進プログラム」を作成してまいります。

また、「幼・小・中」の連携については、子どもたちが、新しい環境に馴染めずに生じる様々な問

題に対応するため、指導の連続性や望ましい学校間のあり方について検討するなど、円滑な接続が図られるよう努めてまいります。

地域に信頼される学校づくりについては、昨年は「教育ふれあいウィーク」として、学校の一斉公開や特別支援教育に関する懇談会などに取り組みましたが、さらに、テーマを広げ、その充実を図るとともに、「教育広報」を発行し、教育活動の積極的な情報発信に努めてまいります。

豊かな心の育成については、子どもの発達段階に応じ、学校の教育活動全体を通して行う道徳教育や人権教育を推進し、基本的な倫理観や規範意識、生命を大切にする心、他人を思いやる心を育成する取り組みを支援してまいります。

不登校・いじめの対応については、「不登校・いじめ等対策会議」を通して、事例研究や教育講演会を実施するとともに、道教委が主催する「どさんこ子ども地区会議」に児童生徒の代表を派遣し、いじめ根絶のための活動を推進してまいります。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、心の教室相談員を配置し、相談体制の充実を図るとともに、適応指導教室と連携した学習や体験活動の取り組みを強化してまいります。

健康や体力づくりの推進については、学校での体力向上の取組を支援するとともに、今年度から、市内中学校で必修となる、柔道の安全で円滑な実施を図るため、指導者研修や指導内容の充実に努めてまいります。また、学校や家庭と連携し、「早寝、早起き、朝ごはん運動」の啓発に努め、子どもたちの生活習慣の改善に取り組んでまいります。さらに、食育については、食に対する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるため、栄養教諭を中核とした指導の充実に努めるとともに、学校給食における衛生管理の徹底や地場産品の活用を推進してまいります。

学校図書館については、図書の充実と読書環境の整備に努めるとともに、昨年度導入を図った図書管理システムの有効活用を促してまいります。

次に、社会教育についてでありますが、

これからの社会教育においては、市民の主体的な学びの場や機会の充実にとどまらず、一人ひとりの学習活動で得た成果を地域や学校など幅広い分野で発揮できる機会をつくり出していくことが重要になっております。そのため、自らの課題を自ら解決する地域社会の形成をめざして、「第四次社会教育中期計画」に掲げる、学習活動や世代間交流、ボランティア活動などの事業展開を図ってまいります。

家庭は、全ての教育の原点でありますので、家庭教育や子育て支援に関わる機関・団体と連携を図り、学習機会の充実に努めるとともに、広報紙を活用し、必要な情報の提供を行うなど、家庭教育を支える環境づくりを進めてまいります。

次に、学校・家庭・地域の連携・協働による教育の推進についてでありますが、地域全体で学校を支援する学校支援地域本部事業については、すべての中学校区で地域教育協議会の組織化が図られましたので、今後は、学校支援ボランティアの確保と支援活動の創出などの取組を支援してまいります。また、地域の方々の参画のもと、放課後の子どもたちの活動拠点として学習やスポーツ、文化活動などを提供する「放課後子ども教室」については、より一層、活動の充実に努めてまいります。さらに、通学合宿については、引き続き、道教委による「学生ボランティア派遣制度」の活用や地域の協力団体との連携・協働により、子どもたちの自主性や協調性を育む機会として、充実を図ってまいります。

青少年の健全育成については、様々な体験活動を通して自己実現を図ることが大切でありますので、各地区の青少年健全育成組織や子ども会育成連絡協議会をはじめ、社会教育関係団体との連携を深め、自然体験や社会体験などの機会が充実されるよう図ってまいります。また、進展するネット環境に、

適切に対応できるよう情報通信技術（ＩＣＴ）を活用して、子どもたちの情報活用能力を育成し、情報モラルの向上を図る取組を推進してまいります。

文化・芸術の振興については、登別市文化・スポーツ振興財団や登別市文化協会等と連携し、市民の文化・芸術活動への参加と鑑賞機会の充実を図り、地域文化の振興とコミュニティの構築に努めてまいります。また、当市の歴史解明や文化資源としての基礎を構築するため道立文書館の協力を得て古文書講座を開催します。

スポーツの振興については、登別市スポーツ推進委員会や登別市体育協会と連携し、各種スポーツ教室の充実とレクリエーション活動の推進に努めるとともに、総合型地域スポーツクラブ「おにスポ」を支援し、生涯スポーツの普及を図ってまいります。また、健康と体力づくりを目的とした「きらり健康ふれあいウォーキング」は、本年度、登別地区で実施することとします。

図書館については、西胆振三市間での相互利用サービスの実施と図書の充実を図り、魅力ある図書館づくりを進めてまいります。また、図書館のバリアフリー化の一環として、地域情報センターＰＩＰ配本所の利活用を図ることとし、その施設整備のあり方について、図書館協議会に諮問してまいります。

また、郷土資料館、ふぉれすと鉱山、カントレラ等の社会教育施設においては、ボランティア活動団体との協働により、効果的な学習活動の機会を提供してまいります。

以上、平成２４年度の教育行政に関する主要な方針を申し上げました。教育委員会としましては、本市のもつ豊かな自然や生活環境、地域の歴史や文化などの教育資源を活用し、豊かな個性と人間性を育む教育行政の推進に全力で取り組んでまいります。

市民の皆さん、ならびに市議会議員の皆さんのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

２　教育に関する具体的な計画とその点検･評価の流れ

３　平成24年度　各種基本計画の進捗状況

- 学校教育基本計画
- 第4次社会教育中期計画
- 文化振興基本計画
- スポーツ振興基本計画

2　教育に関する具体的な計画とその点検・評価の流れ

全体目標

登　別　市　民　憲　章

登　別　市　総　合　計　画　／　登別市生涯学習基本構想

登　別　市　教　育　目　標

具体的な計画

学校教育基本計画（H21～H30）

重 点 1　子どもたちの「生きる力」の育成

1，確かな学力向上
- ①基礎・基本の定着
- ②思考力、判断力、表現力等の育成
- ③学び続ける意欲の醸成

2，豊かな人間性の育成
- ①豊かな心を育む教育の充実
- ②生徒指導、不登校対策等の充実
- ③教育相談の充実

3，たくましく生きるための健康や体力づくり
- ①健康や体力づくりの推進
- ②食育の推進
- ③地域との連携
- ④指導者、指導技術の充実

重 点 2　地域に根ざした魅力ある学校づくり

1，特色ある教育活動の推進
- ①時代の変化に伴う教育課題への対応
- ②総合的な学習の時間の充実
- ③体験学習の充実
- ④情報機器の効果的な活用

2，開かれた学校づくりの推進
- ①学校公開や地域交流推進
- ②家庭・地域との連携推進
- ③地域の教育力の活用
- ④学校評議員・学校評価の活用推進

3，教育環境の充実
- ①児童生徒の安全確保
- ②安全で衛生的な教育環境の充実
- ③特別支援教育の体制づくり
- ④教職員の資質能力の向上

第4次社会教育中期計画（H23～H27）

1　人づくり

(1)青少年教育
次代を切り開くたくましさと豊かな心をもつ青少年を育成するための各種体験活動の充実、環境の整備

(2)成人教育
市民の主体的な学習の推進
＜市民が主体となった社会教育を目指して＞

(3)高齢者教育
高齢者のニーズに応じた多様な学習機会の充実

(4)全世代教育
異世代間交流の充実

2　家庭教育
家庭の教育力向上のための学習支援の教化、充実

3　条件整備
いつでも、どこでも、誰もが学べる学習環境の整備

4　文化活動
文化の保護・継承と文化活動や文化を育む環境づくりの推進を図る

文化振興基本計画（H17～H26）

5　健康づくり・スポーツ
生涯スポーツの推進を図る

スポーツ振興基本計画（H17～H26）

点検・評価

教育員会点検・評価

- 教育行政執行方針の自己評価
- 教育委員会活動報告
- 学識経験者による評価・意見

事務事業評価

- ・予算を伴う事業の評価
- ・担当による自己評価

各種基本計画の進捗状況

- ・学校教育基本計画
- ・第4次社会教育中期計画
- ・文化振興基本計画
- ・スポーツ振興基本計画

3　平成24年度 各種基本計画の進捗状況
学校教育基本計画

重点1　子どもたちの「生きる力」の育成

	主要な施策	推進項目	平成24年度 進捗状況 進展	維持	遅延	教育総務・小・中学校費	執行方針重点番号	平成23年度 進捗状況 進展	維持	遅延	執行重点
1 確かな学力の向上	①基礎・基本の定着	学力向上プラン	○				3	○			3
		基礎・基本の徹底		○			3	○			3
		指導方法工夫改善	○				3	○			3
		学校支援ボランティアの活用	○						○		
		家庭学習の充実		○			3	○			3
	②思考力、判断力、表現力等の育成	校内研修の充実	○				4	○			4
		公開研究会の開催	○			・教育実践研究奨励事業	4	○			4
		研修講座等への参加促進	○				4		○		4
		教科との関連を図った「総合的な学習の時間」の充実		○		・特色ある学校づくり推進経費			○		
		個に応じた指導の充実	○				3		○		
	③学び続ける意欲の醸成	学習評価の充実		○					○		
		授業の充実	○				4	○			2
		生活習慣・学習習慣の形成		○			3	○			3
		創意工夫を生かした教育課程の編成	○					○			2
2 豊かな人間性の育成	①豊かな心を育む教育の充実	自然体験活動の充実	○			・特色ある学校づくり推進経費 ・自然体験学習推進経費	10	○			10
		社会体験活動の充実		○			10	○			10
		道徳教育の充実	○				10	○			
		地域の人材活用	○						○		
		読書活動の推進		○		・図書館運営管理費 ・学校図書システム広域化事業	14	○			8
	②生徒指導、不登校対策等の充実	生徒指導の校内体制の充実	○				11		○		12
		情報連携・行動連携の充実	○			・青少年育成指導経費			○		
		不登校・いじめ等対策	○			・不登校・いじめ等対策経費	11		○		12
		適応指導教室等の充実	○				11		○		
		関係機関との連携		○					○		
	③教育相談の充実	スクールカウンセラーの活用	○			・スクールカウンセラー活動経費		○			
		心の教室相談員の活用		○		・心の教室相談員活動経費			○		
		電話・メール・訪問相談の充実		○					○		
		「いじめ問題」への適切な対応	○			・不登校・いじめ等対策経費	11		○		
		地域、関係部局、関係機関との連携促進	○			・SSW活用事業	11	○			12
3 たくましく生きるための健康や体力づくり	①健康や体力づくりの推進	「体力」についての実態把握		○					○		
		体育の授業の充実		○			12		○		
		体力の向上を目指した特色ある教育活動の促進		○		・スキー授業等推進事業	12	○			11
		薬物乱用防止教育の推進	○						○		
		性に関する指導の推進	○						○		
		体育施設設備の整備・充実	○				12		○		
		中学校運動部活動の充実	○			・特別活動推進経費		○			11
	②食育の推進	食に関する指導 「全体計画」の作成	○				13		○		
		食の通信「すくすく」の発行		○					○		
		栄養教諭による指導	○				13		○		
		望ましい食習慣の啓発	○				13	○			21
	③地域との連携	放課後子どもプランの実践	○			・放課後子ども教室推進事業		○			15
		学校支援ボランティアによる支援	○				17	○			15
	④指導者、指導技術の充実	講習会、各種研修会の参加促進		○					○		
		地域人材の活用	○						○		

重点2　地域に根ざした魅力ある学校づくり

	主要な施策	推進項目	平成24年度 進捗状況 進展	維持	遅延	教育総務・小・中学校費	執行方針重点番号	平成23年度 進捗状況 進展	維持	遅延	執行重点
1 特色ある教育活動の推進	①時代の変化に伴う教育課題への対応	国際理解教育の推進	○				7	○			7
		伝統文化に触れる機会の提供		○					○		7
		食育の推進	○				13		○		
		環境教育の推進	○					○			
		人権教育の推進	○				10		○		
		英語教育の推進・小学校外国語活動の推進	○			・外国青年招致経費	7	○			7
		安全教育の推進	○				1	○			
		読書活動の推進		○				○			8
	②総合的な学習の時間の充実	全体計画・指導計画の充実		○					○		
		地域の人材・環境の活用	○						○		
		特色ある活動の継承	○				6		○		
		キャリア教育	○						○		
	③体験活動の充実	自然体験・社会体験学習の充実	○			・自然体験学習推進経費	18	○			
		異学年交流の促進	○					○			
		子ども共同生活体験の推進	○			・通学合宿　みんなで学ぶ「子ども村」	17	○			
	④情報機器の効果的な活用	情報教育の推進		○		・小中学校情報教育推進事業		○			
		授業での活用促進	○						○		
		教員用コンピュータの効果的な活用	○						○		
		登別市情報教育推進協議会との連携		○		・情報教育システム広域化事業		○			
2 開かれた学校づくりの推進	①学校公開や地域交流の推進	学校からの情報発信	○				9		○		4
		学校公開の促進	○				9	○			1
		学校支援ボランティアの活用	○						○		
		地域活動との連携		○					○		
		小中学校の連携の促進		○			8	○			6
	②家庭・地域との連携促進	家庭教育の充実	○					○			16
		地域教育の充実	○						○		
		学校支援ボランティアの体制整備	○			・子ども地域交流プラザ事業補助金 ・学校支援地域本部事業費	17	○			15
	③地域の教育力の活用	学校支援ボランティアの活用	○				17	○			13
	④学校評議員・学校評価の活用促進	学校評議員制度		○		・開かれた学校づくり推進事業			○		
		学校評価の促進		○					○		5
		学校評価の活用		○					○		
3 教育環境の充実	①児童生徒の安全確保	施設設備の保守点検、改修	○				2	○			
		学校施設の耐震化	○				2	○			13
	②安全で衛生的な教育環境の充実	危機管理マニュアルの点検	○				1	○			
		不審者対策等、登下校の安全確保	○						○		
		学校環境検査の実施	○						○		
	③特別支援教育の体制作り	児童生徒の実態把握	○			・特別支援教育推進経費	5	○			9
		推進のための校内体制の整備	○						○		
		コーディネーター等研修会の開催	○				5		○		
		支援員（介助員、学習支援補助員）	○				5	○			9
		登別市特別支援教育推進協議会		○		・特別支援教育振興費	5		○		
		部局・関係団体等との連携促進	○			・言語障害通級教室運営経費		○			
	④教職員の資質能力の向上	校内研修の充実	○				4	○			4
		研修事業への派遣促進	○				4	○			
		学校職員評価の実施		○					○		
		教員研修会等の開催	○				4	○			
		登別市教育研究会との連携	○			・教育研究会運営事業補助金	4		○		
		胆振教育研究所との連携	○						○		

第4次社会教育中期計画（H23～H27）

	主要な施策	推進項目	平成24年度 進捗状況 進展	維持	遅延	教育総務・小・中学校費	執行方針重点番号	平成23年度 進捗状況 進展	維持	遅延	執行重点
1	人づくり	(1)青少年 次代を切り開くたくましさと豊かな心をもつ青少年を育成するため各種体験活動の充実、環境の整備	○			・姉妹都市小中学校交流事業補助金 ・少年の主張大会経費 ・子ども会活動振興助成金		○			
		(2)成人 市民の主体的な学習の推進＜市民が主役となった社会教育を目指して＞	○			・市民生涯学習推進講座経費 ・三市合同女性国内派遣研修経費 ・成人祭経費	15	○			
		(3)高齢者 高齢者のニーズに応じた多様な学習機会の充実	○					○			
		(4)全世代 異世代間交流の充実	○			・生涯学習推進経費		○			
2	家庭教育	家庭の教育力向上のための学習支援の強化、充実	○			・PTA連合会助成金	16	○			16
3	条件整備	いつでも、どこでも、誰もが学べる学習環境の整備・充実		○		・教育施設運営管理委託料 ・社会教育業務推進事業費			○		
4	文化活動	文化振興基本計画の推進	○			・文化振興助成金	19	○			19
5	健康づくり・スポーツ	スポーツ振興基本計画の推進	○			・体育協会助成金 ・生涯スポーツ振興及びスポーツ関連団体の育成経費	20	○			20

文化振興基本計画

	主要な施策	推進項目	平成24年度 進捗状況 進展	維持	遅延	教育総務・小・中学校費	執行方針重点番号	平成23年度 進捗状況 進展	維持	遅延	執行重点
1	市民文化活動の活性化	・自主的、個性的な文化活動 ・文化情報の収集、周知、参加の促進 ・芸術文化の鑑賞機会の提供 ・文化活動施設の整備	○			・婦人研修の家維持管理経費 ・公民館運営管理費 ・ネイチャーセンター運営管理経費	19	○			
2	文化活動を担う人づくり	・文化活動の広がり ・青少年の健全育成 ・自主的な文化活動の育成 ・人材育成と発掘	○			・三市合同文化事業負担金 ・図書館運営管理事業	19	○			19
3	歴史の伝承と活用	・郷土への愛着 ・埋蔵文化財の保護と活用 ・民俗芸能の継承 ・温泉の歴史の活用、発信	○			・文化伝承館運営管理費 ・のぼりべつ文化交流館運営管理費 ・市民が記憶する歴史収集事業 ・郷土資料館運営管理費	19	○			19
4	アイヌ文化の振興	・市民一人ひとりの共有財産として、歴史的な遺産にとどめることなく、将来に向かって振興を図る		○		・文化財保護経費		○			

スポーツ振興基本計画

	主要な施策	推進項目	平成24年度 進捗状況 進展	維持	遅延	教育総務・小・中学校費	執行方針重点番号	平成23年度 進捗状況 進展	維持	遅延	執行重点
1	スポーツレクリエーション活動の推進	・余暇の充実 ・参加するスポーツへの転換	○			・姉妹都市スポーツ交流事業助成金 ・スポーツ推進委員会経費 ・文化・スポーツ振興財団事業補助金	20	○			20
2	健康・体力づくり	・高齢化社会を健やかに ・医療費の縮減につなげる		○		・学校開放事業費	20	○			
3	競技スポーツの推進	・青少年の健全育成 ・全国・全道レベルの達成	○			・市町スポーツ交流会事業費 ・児童生徒スポーツ振興助成金 ・登別市スポーツ少年団育成助成金		○			20
4	学校におけるスポーツ活動の推進	・体育指導の充実 ・運動・スポーツに親しむ ・資質・能力の育成	○			・市民プールバスパック業務委託費	20		○		
5	施設整備の推進	・施設の積極的開放 ・協力し合い利用 ・スポーツ施設情報	○			・青少年会館運営管理費 ・市民プール運営管理経費 ・総合体育館整備事業			○		